

経済学研究科

開設科目	理論経済学研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	山田正雄				

●**授業の概要** 経済成長理論の基礎

●**授業の一般目標** 経済成長のメカニズムを理解する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 集計的生産関数
- 第 2 回 項目 資本蓄積と定常状態
- 第 3 回 項目 貯蓄率の変化
- 第 4 回 項目 黄金律
- 第 5 回 項目 黄金律と動学的非効率性
- 第 6 回 項目 人口成長率の変化
- 第 7 回 項目 技術進歩
- 第 8 回 項目 技術進歩モデルにおける貯蓄率の変化
- 第 9 回 項目 技術進歩と黄金律
- 第 10 回 項目 技術進歩と動学的非効率性
- 第 11 回 項目 技術進歩モデルにおける人口成長率の変化
- 第 12 回 項目 技術進歩率の変化
- 第 13 回 項目 AK モデル
- 第 14 回 項目 移行動学を伴う内生的成長
- 第 15 回 項目 予備

●**教科書・参考書** 参考書：内生的経済成長論 I, バロー、サラ・イ・マーティン, 九州大学出版会, 1997 年

開設科目	理論経済学研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	都市経済論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	吉村弘				

- 授業の概要** 優れた修士論文を作成するために役立つものとしたい。修士論文のテーマについて報告し、ディスカッションする。／**検索キーワード** 修士論文、地域経済、都市経済
- 授業の一般目標** 修士論文として恥ずかしくない立派な論文を作成する準備を行う。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：修論テーマについての基礎的な事項を習得する。**関心・意欲の観点**：社会問題について、優れた問題意識を持ち、育てる。
- 授業の計画（全体）** 修論のテーマについて、報告を重ねる。それを通じて、テーマを絞り込み、また、テーマを発展させ、テーマを深める。
- 教科書・参考書** 教科書：吉村弘『最適都市規模と市町村合併』東洋経済新報社、1999年。
- メッセージ** 良い修論を作るためにこの授業を活用したい。
- 連絡先・オフィスアワー** e-mail：yosimura@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日10：20－11：50

開設科目	地域経済論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	吉村弘				

●**授業の概要** 優れた修士論文を作成するために役立つものとして。今回は地域経済成長の移出主導モデルについて、テキストに沿って学習し、その後、日本のデータに即して研究する。

●**メッセージ** テーマは狭いが、その考え方およびアプローチの仕方は、応用範囲が広いと考えられる。

開設科目	制度の経済学研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	植村高久				

- 授業の概要** 現代の制度論の基本的な文献を渉猟し、経済学における制度の扱い方についての概括的理解を得る。

開設科目	高齢化社会の経済学的研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	植村高久				

●**授業の概要** 日本における高齢化の進展から生じる経済的問題を総合的多面的に考察する。

開設科目	経済学史研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	経済学史研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	社会思想論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	社会思想論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	現代日本の労使関係	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	濱島清史				

●**授業の概要** 現代日本の労使関係について、主に労組、経営者団体、政策の戦後の動向を辿っていき、各自の歴史認識を深めることをねらいとする。労使関係には上記以外に日本の労使関係の考察や労務管理なども考えられるが、本講義では政労使三者関係史を中心に概観していくことにする。なお、受講生の希望によっては、日本的雇用慣行、キャリア形成の議論にしてもよい。／**検索キーワード** 労使関係、労働組合、経営者団体、政労使、日本的雇用慣行

●**授業の一般目標** 現代日本の労使関係の基本事項について認識すること。

●**授業の計画（全体）** ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト(1)か(2)のいずれかを輪読し、毎回参加者にレジュメを作成して報告してもらう。なお、下記の参考書(5)はテキストとの立場上のバランスをとるために挙げている。それが終わったら、テキスト(3)の1990年以降の「第1概説」部分を毎回輪読していく。発表者にはできれば白書全頁とさらに参考文献を併せて読んできて報告することを期待する。その他の参加者も少なくとも十数年分の「第1概説」を通読して知識を養ってもらう。経済白書や世銀の年報の数年分の輪読は、他の大学院のゼミでも取り入れられており、とても有意義な方法と認識している。

●**成績評価方法（総合）** レジュメ発表と学期末レポート。レポートが50%、発表等が40%、出席が10%。

●**教科書・参考書** 教科書：・テキスト候補(1)神代和欣・連合総合生活開発研究所編(1995)『戦後50年産業・雇用・労働史』日本労働研究機構。(2)兵藤ツトム(1997)『労働の戦後史』東京大学出版会。(3)(厚生)労働省『労働運動白書』大蔵省印刷局、各年版。・参考書は適宜指摘するが、さしあたり(4)法政大学大原社会問題研究所編(1999)『日本の労働組合100年』旬報社。(5)労働問題実践シリーズ編集委員会編5『労働組合を創る』大月書店。教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。／参考書：適宜指示する。

●**メッセージ** 共に学ばん！

●**連絡先・オフィスアワー** tel : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス : hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	労使関係の国際比較	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	濱島清史				

●**授業の概要** 比較研究をすることによって対象への認識は深まるものであり、何らかの比較のないところでは対象の位置づけ自体が定まらなくなってしまう。本講義では労使関係の国際比較を行なうことによって、各自の専門(関心)領域に幅をもたせてもらうことをねらいとする。先進国—日本—途上国の三段階の労使関係論を体系的に構築していく魁とならんことを期待したい。／**検索キーワード** 政労使関係

●**授業の一般目標** 世界の主要国の労使関係の基本事項について認識すること。

●**授業の計画(全体)** ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト(1)(2)から何部か選択して輪読していき、毎回参加者にレジュメを作成して報告してもらおう。ゼミの後半は、各自が関心を持つ国に関して調べてきて発表してもらいたい。

●**成績評価方法(総合)** レジュメ発表と学期末レポート。レポートが50%、発表等が40%、出席が10%。

●**教科書・参考書** 教科書：・テキスト候補(1) 桑原靖夫、グレッグ・バンバー、ラッセル・ランズベリー編(1994)『先進諸国の労使関係—国際比較：21世紀に向けての課題と展望—』日本労働研究機構。(2)「特集●開発主義と労使関係」日本労働研究雑誌1999年8月号、No.469。・参考書は適宜指摘するが、さしあたり(3) 稲上毅・H. ウィッターカー他(1994)『ネオ・コーポラティズムの国際比較—新しい政治経済モデルの探索—』日本労働研究機構。(4) 日本労働協会編『海外調査シリーズ、〇〇国の労働事情』日本労働協会(現日本労働研究機構)。教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。／参考書：適宜指示する。

●**メッセージ** 共に学ばん!

●**連絡先・オフィスアワー** tel : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス : hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	地域社会福祉論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	鍋山祥子				

- 授業の概要** 「地域」や「福祉」をキーワードにして、私たちの生活社会のあり方について考える。現在の福祉政策がどのような理念のもとに進められているのか、また、どのような問題点が指摘されているのか、などについて、最近の雑誌論文や最新の文献を読み合わせることによって、議論を進めていく。テーマとなる主な福祉政策は、高齢者福祉政策、医療政策、労働政策、家族政策などである。また、ジェンダー・パースペクティブを有効な方法論として使用する。／**検索キーワード** 地域、福祉、社会学、コミュニティ、ジェンダー
- 授業の一般目標** 生活に福祉政策がどのように関わっているのかを当事者意識を持って考察することができる。福祉政策が社会に与える影響について分析することができる。
- 授業の計画（全体）** 演習形式で授業をおこなう。各自が話し合いによって文献の分担を決め、授業での報告をもとに全員での討論をおこなう。
- 成績評価方法（総合）** 授業への参加度合いや討論の内容など、総合的に判断し評価する。演習形式の授業のため、出席は履修の必要条件である。
- メッセージ** 授業内容を自分の興味関心と結びつけて考察するという姿勢を望みます。
- 連絡先・オフィスアワー** 来室の際はメールにて予定をお知らせ下さい。 e-mail nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp URL <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nabeyama/>

開設科目	地域社会福祉論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	鍋山祥子				

- 授業の概要** 福祉政策のあり方は国によって大きく異なる。福祉国家比較をおこなうことによって、日本の福祉政策の現状と理念について理解を深める。特に、スキャンジナビアモデルと称される北欧諸国の福祉政策を考察することによって、個人、家族、国家との関係がどのようなもので、また、賃金労働とケアとの関係がどのように考えられているのかなどについて、議論を進める。／**検索キーワード** 福祉国家、福祉政策、社会学、ケア、家族、ジェンダー
- 授業の一般目標** 比較福祉国家論の方法を修得する。政策と政治、個人と社会との関係について多角的に考察できる。
- 授業の計画（全体）** 演習形式で授業をおこなう。各自が話し合いによって文献の分担を決め、授業での報告をもとに全員での討論をおこなう。
- 成績評価方法（総合）** 授業への参加度合いや討論の内容など、総合的に判断し評価する。演習形式の授業のため、出席は履修の必要条件である。
- メッセージ** 授業内容を自分の興味関心と結びつけて考察するという姿勢を望みます。
- 連絡先・オフィスアワー** 来室の際はメールにて予定をお知らせ下さい。 e-mail nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp URL <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nabeyama/>

開設科目	経済変動論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	馬田哲次				

●**授業の概要** 限定合理性と収穫逓増の視点から、経済主体の行動を分析する。

●**授業の一般目標** 経済主体の行動を分析し、それを数式を使ったモデルとして表すことが出来る。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 新古典派経済学の考え方
- 第 2 回 項目 合理性の限界
- 第 3 回 項目 限定合理性
- 第 4 回 項目 収穫逓増
- 第 5 回 項目 家計の行動（1）
- 第 6 回 項目 家計の行動（2）
- 第 7 回 項目 家計の行動（3）
- 第 8 回 項目 企業の行動（1）
- 第 9 回 項目 企業の行動（2）
- 第 10 回 項目 企業の行動（3） 内容 8
- 第 11 回 項目 企業の行動（4）
- 第 12 回 項目 銀行の行動（1）
- 第 13 回 項目 銀行の行動（2）
- 第 14 回 項目 銀行の行動（3）
- 第 15 回 項目 予備

開設科目	経済変動論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	馬田哲次				

●**授業の概要** 経済変動論Aでの経済主体の行動を基に、マクロ経済モデルをつくり、経済の運動について分析する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 マクロ経済分析の方法
- 第 2 回 項目 財市場（1）
- 第 3 回 項目 財市場（2）
- 第 4 回 項目 財市場（3）
- 第 5 回 項目 預金市場（1）
- 第 6 回 項目 預金市場（2）
- 第 7 回 項目 貸付資金市場（1）
- 第 8 回 項目 貸付資金市場（2）
- 第 9 回 項目 債券市場（1）
- 第 10 回 項目 債券市場（2）
- 第 11 回 項目 労働市場（1）
- 第 12 回 項目 労働市場（2）
- 第 13 回 項目 マクロ経済モデル（1）
- 第 14 回 項目 マクロ経済モデル（2）
- 第 15 回 項目 予備

開設科目	計量経済学研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	
担当教官	野村淳一				

●**授業の概要** 経済理論を現実のデータで検証・利用するための基本となる分析ツールである重回帰モデルの理論とその応用方法について解説し、パソコンを用いて実際に推計、レポートを作成する。

●**授業の一般目標** 重回帰分析の基礎的な理論を行列演算形式で理解する。経済理論を現実のデータを用いて検証する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：基本的な計量経済学の理論を理解している。**思考・判断の観点**：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。計量経済学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。**技能・表現の観点**：発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

●**授業の計画（全体）** 1. 行列演算 2. 重回帰分析 3. 古典的仮定とその拡張

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 行列演算の基礎 (1)

第 2 回 項目 行列演算の基礎 (2)

第 3 回 項目 行列演算の基礎 (3)

第 4 回 項目 最小 2 乗法

第 5 回 項目 あてはまりの尺度 (1) 内容 残差プロット、決定係数 (自由度修正済み)

第 6 回 項目 あてはまりの尺度 (2) 内容 関数型の選択、情報量基準

第 7 回 項目 古典的仮定と最小 2 乗推定量の性質 (1) 内容 多重共線性

第 8 回 項目 古典的仮定と最小 2 乗推定量の性質 (2) 内容 説明変数の過剰と欠如の影響

第 9 回 項目 古典的仮定と最小 2 乗推定量の性質 (3) 内容 t 検定

第 10 回 項目 古典的仮定と最小 2 乗推定量の性質 (4) 内容 ダミー変数、F 検定、構造変化

第 11 回 項目 古典的仮定の拡張 (1) 内容 不均一分散

第 12 回 項目 古典的仮定の拡張 (2) 内容 系列相関

第 13 回 項目 古典的仮定の拡張 (3) 内容 分布ラグ・モデル

第 14 回 項目 予備

第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法（総合）** 課題レポートで判定する。評価割合は 100 %。

●**教科書・参考書** 教科書：Econometric Analysis 5th ed, William H. Greene, US Imports & PHIPs, 2002 年

●**メッセージ** レポート作成に必要なワープロソフトの知識を持っていることを前提とする。計量分析のためのアプリケーションは講義中に指示・指導する。

●**連絡先・オフィスアワー** nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 2 回、1 時間 30 分程度設ける (講義中に指示)

開設科目	計量経済学研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	
担当教官	野村淳一				

- 授業の概要** 計量経済分析の応用範囲は、今日広範囲に広がっており、先端的な分野における分析ツールを短期間に全てカバーすることは不可能である。したがって本講義では受講生の専攻分野でよく用いられる手法に集中し、その理論と応用方法について解説する。
- 授業の一般目標** 計量経済分析の先端的な分野の理論を習得し、現実のデータへ応用する。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： 基本的な計量経済学の理論を理解している。 **思考・判断の観点**： 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 計量経済学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。 **技能・表現の観点**： 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。 統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。
- 授業の計画（全体）** 次の分野から受講生の希望により選択する。 1. 質的変数モデル 2. パネル・データの分析 3. 単位根・共積分分析 4. ARCH モデル 5. カルマン・フィルター 6. 多変量解析（主成分分析、因子分析、クラスター分析）
- 成績評価方法（総合）** 課題レポートで判定する。評価割合は 100 %。
- 教科書・参考書** 教科書： Econometric Analysis 5th ed, William H. Greene, US Imports & PHIPs, 2002 年； その他に選択分野により適宜テキストを指定する。
- メッセージ** レポート作成に必要なワープロソフトの知識を持っていることを前提とする。計量分析のためのアプリケーションは講義中に指示・指導する。
- 連絡先・オフィスアワー** nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 2 回、1 時間 30 分程度設ける（講義中に指示）

開設科目	経済心理学研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	馬田哲次				

●**授業の概要** 人間を意識面からとらえなおし、それをもとに、豊かさ、富について考える。そして、豊かさを実現するうえにおいて、今日の経済システムが影響を与えているプラス面とマイナス面について考察し、さらに、経済社会システムをどのように再構築すれば豊かさを実現しやすいかについて考える。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 経済心理学とは
- 第 2 回 項目 新古典派経済学批判
- 第 3 回 項目 経済学とは何か
- 第 4 回 項目 新しい人間観（1）
- 第 5 回 項目 新しい人間観（2）
- 第 6 回 項目 豊かさと富
- 第 7 回 項目 自然・経済・人間
- 第 8 回 項目 資本主義経済の特徴
- 第 9 回 項目 労働
- 第 10 回 項目 組織
- 第 11 回 項目 市場・貨幣
- 第 12 回 項目 消費
- 第 13 回 項目 環境問題
- 第 14 回 項目 新しい経済・社会システム
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	経済史研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古賀大介				

●**授業の概要** 本講義では、かつて「世界の工場」と呼ばれたイギリス経済の衰退について勉強します。とりわけ、本講義では、産業衰退の有力な原因とされる「銀行責任論」に注目します。この議論をごく簡単にいうと、イギリスの銀行は、ドイツの銀行と比較し、産業からの資金需要に適切に応じていなかった、このことがイギリス産業の衰退に大きく影響した というものです。果たしてこうした議論は妥当なのでしょうか？ 比較銀行史の視点から実証的に考えてみたいと思います。／**検索キーワード** 産業金融 衰退 イギリス ドイツ 商業銀行 ユニバーサル銀行

●**授業の一般目標** 1. イギリスの産業衰退の諸要因について学ぶ 2. 商業銀行 (イギリス) とユニバーサル銀行 (ドイツ) を比較し、それぞれの長所・短所 について学ぶ

●**授業の計画 (全体)** 授業は、ゼミスタイルで行います。人数によっては毎回報告してもらうことになるかもしれません。内容的には、専門的な金融の知識をそれほど必要としませんが、単位取得 にいたるには、一定程度の日本語能力が必要となります。

●**教科書・参考書** 教科書：1. M.Collins,'English bank development within a European context, 1870-1939,Economic History Review,LI,1,1998,pp.1-24. 2. 湯沢威編 『イギリス経済史 盛衰のプロセス』有斐閣、1996年。1. はこちらで用意します。2. は、できるだけ事前に入手してください。

●**メッセージ** 1. 本講義は、歴史には興味あるが、金融は苦手・・もしくは、その逆の方の積極的な参加を求めます。ただ金融を専門とし、金融についてある程度の自信がある方にとっては、少々物足りない授業になるかもしれません。 2. 受講希望者は、必ず事前に面談にきてください (堅苦しいものではないのでお気軽にどうぞ)

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室に電気がついているときは、いつでもどうぞ (A208)

開設科目	経済史研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古賀大介				

●**授業の概要** 最近、アジアの工業化に対する「ウェスタン・インパクト」（イギリスをはじめとする 欧米諸国の「帝国主義」）の影響を積極的に評価する議論が盛んになってきています。これまで通説とされきた歴史観を180度転換させる議論として、また究極的には、わが国の「歴史教科書」問題にもつながる議論として、大変興味深い議論ですが、果たして手放しに受け入れられるべき議論なのでしょうか？本講義では、まず、こうした新たな議論について勉強します。ついで、こうした議論とは対極にある議論を勉強します。最後に、二つの議論をつきあわせて、改めて植民地 投資・開発とは「だれが」「だれのために」行ったものであるのかを再確認し、同時に、開発とは何か、発展とは何かについて考えてみたいと思います。／**検索キーワード** 工業化 開発 植民地 イギリス インド アジア 歴史観

●**授業の一般目標** 1. グローバルかつ歴史的視点からアジアの工業化について考える。 2. 植民地（「途上国」）投資・開発の「光」と「影」を学ぶ。 3. 歴史の両義性を知り、近代史に対する自分なりの歴史観を養う。

●**授業の計画（全体）** 講義はゼミスタイルで行います。人数によっては、毎回報告してもらうことになるかもしれません。内容的には、それほど専門性の高いものではありませんが、単位取得にいたるには一定程度の日本語能力が要求されます。

●**教科書・参考書** 参考書： 1. 秋田茂『イギリス帝国とアジア国際秩序』名古屋大学出版会、2003年。 2. 杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルバ書房、1996年。 3. 吉岡昭彦『インドとイギリス』岩波新書、1974年。 3. は、できるだけ事前に入手（購入）しておいてください。 1. 2. は、余裕があれば入手（購入）してください。事前に入手しておく必要はありません。

●**メッセージ** 受講希望者は、必ず事前に面談に来てください（堅苦しいものではないので お気軽にどうぞ）。

●**連絡先・オフィスアワー** 内線 5516 (A-208) 研究室に電気がついているときはいつでもどうぞ。

開設科目	日本経済史研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	木部和昭				

- 授業の概要** テーマ：産業革命期の日本経済 本講義では、明治 20(1887) 年頃から日露戦争後 (1910 年頃) にかけて展開したとされる 産業革命期の日本経済について取り上げる。日本の産業革命は、日本経済近代化の端緒 であると同時に、様々な面で日本という国を大きく変容させていった。では、日本の産業革命は、欧米諸国のそれと比べてどの様な特徴を持ち、具体的にいかなる過程をたどって展開していったのか、あるいは産業革命を達成できた要因は何であったのか、といった点について考察を加えていきたい。そうした上で、産業革命が地域社会に及ぼした 影響についても、具体的事例を取り上げながら詳細に検討してみたい。／**検索キーワード** 日本経済史、日本近代史、産業革命
- 授業の一般目標** ・産業革命が日本の地域社会をどの様に変えたのかを理解する。 ・経済史の分野で地域社会を分析する視角を養う。 ・修士論文に向けた知識や手法の習得を目指す。
- 授業の計画 (全体)** 当面は下記のテキスト、石井寛治『日本の産業革命』を中心に進めるが、受講生の興味関心に応じて、適宜、別の図書・論文の講読も行う。受講者には順次報告を課し、それについての討論および補足を行いながら進めていく。また、関係する基本的文献・資 史料を把握し、また、それらを用いた資史料講読も行う。
- 成績評価方法 (総合)** 課題の報告およびレポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書： 『日本の産業革命』, 石井寛治, 朝日新聞社, 1997 年／ 参考書： この他の参考書は適宜紹介する。
- メッセージ** ・講義内容は、受講者の専攻及び興味関心によって、変更になる場合がある。 ・日本経済史研究 B (前期開講) との通年履修が望ましい。
- 連絡先・オフィスアワー** 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本経済史研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	木部和昭				

●**授業の概要** テーマ：日本経済近代化と企業家の役割 明治・大正・昭和にかけての近代日本経済史について、「企業家 (entrepreneur)」の活動およびその役割に焦点を絞って取り扱う。19世紀半ば、黒船の来航による西洋文明の衝撃によって近代国家への道を歩み始めた日本が、西洋の先進技術を貪欲に吸収し、種々の産業を興し、工業化を推進し、ついには産業革命を達成するなど、驚異的経済発展を遂げた事実は広く知られている。その発展の要因には様々なものが考えられるが、近年特に注目されているのが「企業家」の果たした役割である。「企業家」活動が経済発展に与える役割の大きさは、シュンペーターによって理論的に指摘されて以来、経済史学・経営史学に多大な影響を与え、多くの研究蓄積をもたらしている。本授業では、こうした研究成果を踏まえつつ、日本の「企業家」群像の諸活動を通じて、近代日本の経済発展について多面的に考察していきたい。／**検索キーワード** 日本経済史、日本近代史、経営史、企業家

●**授業の一般目標** ・近代日本の経済史について理解を深める。 ・「企業家」の諸活動が日本の産業革命、近代化に及ぼした影響を多面的に考察する。 ・修士論文に向けた知識や手法の習得を目指す。

●**授業の計画 (全体)** 当面は下記のテキストを輪読する。受講者には順次報告を課し、それについての討論 および補足を行いながら進めていく。また、関係する基本的文献・資料を把握し、また、それらを用いた資料講読も適宜行う。

●**成績評価方法 (総合)** 課題の報告およびレポートによる。

●**教科書・参考書** 教科書：企業家たちの挑戦, 宮本又郎, 日本の近代 11, 中央公論新社, 1999年; 下記のテキストを必ず購入のこと。／参考書：近代日本経営史の基礎知識 (増補版), 中川敬一郎・森川英正・由井信彦編, 有斐閣, 1997年; この他の参考書・資料に関しては授業中に適宜紹介する。

●**メッセージ** 日本経済史研究A (後期開講) との通年履修が望ましい。講義内容は、受講者の専攻及び興味関心によって、変更になる場合がある。

●**連絡先・オフィスアワー** 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	公共経済研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	藤井大司郎				

●**授業の概要** 公共経済研究Bとともに、公共部門の経済理論に属する緒テーマを幅広く学ぶことを目的とする。この科目は、ミクロ経済学、マクロ経済学、及び厚生経済学に関する理解を前提としており、ある程度の経済数学的知識（微積分、線形数学の初歩程度）にもp通じていることが望ましい。また、必要に応じて関連する学術論文（英文）を参照することもあるので、英語読解力も求められる。

●**教科書・参考書** 教科書：lectures on Public Economics, A.B. Atkinson and J.E. Stiglitz, M c G r a w - H i l l, 1980 年

開設科目	公共経済研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	藤井大司郎				

●**授業の概要** 公共経済研究Aとともに、公共部門の経済理論に属する緒テーマを幅広く学ぶことを目的とする。この科目は、ミクロ経済学、マクロ経済学、及び厚生経済学に関する理解を前提としており、ある程度の経済数学的知識（微積分、線形数学の初歩程度）にもp通じていることが望ましい。また、必要に応じて関連する学術論文（英文）を参照することもあるので、英語読解力も求められる。

●**教科書・参考書** 教科書：lectures on Public Economics, A.B. Atkinson and J.E. Stiglitz, M c G r a w - H i l l, 1980 年

開設科目	政府と政策	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	仲間瑞樹				

- 授業の概要** この講義では主として日本のマクロ経済政策，ミクロ経済政策に携わっている日本の政策立案者（政策当局者）が執筆した英文論文を読む。そして政策立案者が日本経済や財政，そして財政金融，並びに財政金融政策をどのように評価しているかを考察する。読む論文は全て英文であり，一回に20～30ページ程度をこなしてゆく。つまり1回の講義で1つの論文，あるいは1 Chapterを読むことになる。注意してほしいことは，英文和訳の講義ではないこと。論文を読み，受講生に内容を発表してもらおう。そして論文の中で扱っているテーマ

開設科目	金融経済と貨幣理論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	兵藤隆				

●**授業の概要** この講義では、基礎的な金融経済理論および貨幣理論の考察を通じて、今後のわが国の金融システムがどのように変化すべきなのかを理論的・実証的に検証していくことを目的とする。／**検索キーワード** 金融理論、貨幣理論、マネー、Money、金融機関、金融制度、金融システム

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 金融の歴史：明治期から戦後復興期まで
- 第 3 回 項目 高度成長期の金融システム
- 第 4 回 項目 金融自由化
- 第 5 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (1)
- 第 6 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (2)
- 第 7 回 項目 公的金融と財政投融资制度
- 第 8 回 項目 公的金融と郵便貯金
- 第 9 回 項目 金融の現状
- 第 10 回 項目 貨幣の役割：貨幣理論の基礎
- 第 11 回 項目 貨幣需要
- 第 12 回 項目 利子率の期間構造
- 第 13 回 項目 金融仲介機関と情報の非対称性
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備

開設科目	金融システムとファイナンス研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	兵藤隆				

●**授業の概要** この講義では、金融工学（ファイナンス）理論や情報の経済学など、よりアドバンスト（発展的）な金融理論を理論的・実証的に検証していくことを目的とする。／**検索キーワード** 金融工学 ファイナンス 投資決定理論

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 1
- 第 3 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 2
- 第 4 回 項目 統計学の基礎 1
- 第 5 回 項目 統計学の基礎 2
- 第 6 回 項目 平均・分散アプローチ 1
- 第 7 回 項目 平均・分散アプローチ 2
- 第 8 回 項目 CAPM 理論 1
- 第 9 回 項目 CAPM 理論 2
- 第 10 回 項目 APT（価格裁定理論）
- 第 11 回 項目 行動ファイナンス理論
- 第 12 回 項目 デリバティブの概要
- 第 13 回 項目 オプション価格決定理論 1
- 第 14 回 項目 オプション価格決定理論 2
- 第 15 回 項目 予備

●**メッセージ** 統計学や基礎的な数学ツールは各自で補ってください。

開設科目	経済応用数学A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	柏木芳美				

●**授業の概要** 受講生の数学的予備知識に配慮しながら、ミクロ経済学の数学的理解に必要な不可欠な多変数関数の微分や行列式や凹関数の最大値問題などについて概説する。尚、他に希望があれば相談にのる。

●**授業の一般目標** ミクロ経済学で使う数学を身につけること。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：1. 偏導関数の計算ができる。2. 行列式の計算ができる。3. 無差別曲線、限界代替率などの概念を理解できている。 **思考・判断の観点**：1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 **関心・意欲の観点**：1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 1 変数関数の微分の計算 その 1

第 2 回 項目 1 変数関数の微分の計算 その 2

第 3 回 項目 1 変数関数の最大・最小問題

第 4 回 項目 偏微分 その 1

第 5 回 項目 偏微分 その 2

第 6 回 項目 高階偏微分

第 7 回 項目 全微分

第 8 回 項目 接平面

第 9 回 項目 合成関数の微分 その 1

第 10 回 項目 合成関数の微分 その 2

第 11 回 項目 行列式の計算 その 1

第 12 回 項目 行列式の計算 その 2

第 13 回 項目 行列式の計算 その 3

第 14 回 項目 陰関数定理と無差別曲線 その 1

第 15 回 項目 陰関数定理と無差別曲線 その 2

●**成績評価方法（総合）** 毎回演習問題を出す。その結果を見て成績を付ける。

●**教科書・参考書** 教科書：授業開始時点に指示する。

●**メッセージ** 毎回演習問題を出すので必ず次回までに解いてくること。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	経済応用数学B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	
担当教官	柏木芳美				

- 授業の概要** 経済応用数学 A に引き続き、ミクロ経済学の理解に必要な数学の概説を行う。
- 授業の一般目標** ミクロ経済学で使う数学を身につけること。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 条件付き極値問題の意味を理解し、具体的な問題が解ける。2. 効用最大化問題・支出最小化問題の意味を理解し、具体的な問題が解ける。3. スルツキー方程式が扱える。4. 所得項・代替項の意味を理解し、その基本的な性質が扱える。**思考・判断の観点**：1. 経済現象を数学を使って考えることができる。**関心・意欲の観点**：1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。
- 授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**
 - 第 1 回 **項目** 条件付極値問題 その 1
 - 第 2 回 **項目** 条件付極値問題 その 2
 - 第 3 回 **項目** 凸集合
 - 第 4 回 **項目** 凸関数, 凹関数 その 1
 - 第 5 回 **項目** 凸関数, 凹関数 その 2
 - 第 6 回 **項目** 準凹関数
 - 第 7 回 **項目** 効用最大化問題 その 1
 - 第 8 回 **項目** 効用最大化問題 その 2
 - 第 9 回 **項目** 支出最小化問題 その 1
 - 第 10 回 **項目** 支出最小化問題 その 2
 - 第 11 回 **項目** 双対性
 - 第 12 回 **項目** スルツキー方程式 その 1
 - 第 13 回 **項目** スルツキー方程式 その 2
 - 第 14 回 **項目** 代替項の性質
 - 第 15 回 **項目** ギッフェン財, 代替財, 補完財
- 成績評価方法（総合）** 毎回演習問題を出す。その結果を見て成績を付ける。
- 教科書・参考書** 教科書：授業開始時点に指示する。
- メッセージ** 毎回演習問題を出すので必ず次回までに解いてくること。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	国際経済学研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	田淵太一				

- 授業の概要** グローバリゼーションが発展途上国にもたらす影響の検討。
- 授業の一般目標** グローバリゼーションの負の側面を理解する。
- 授業の計画（全体）** テキストを輪読しつつ関連文献を紹介してゆきます。
- 成績評価方法（総合）** 報告・討論等，日常的な活動により評価します。授業への参加度 50%，受講者の発表 50%。
- 教科書・参考書** 教科書：グローバリゼーションと発展途上国，吾郷健二，コモンズ，2003 年
- メッセージ** 大学院レベルの経済理論の知識を要求します。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワーは前期開始後に発表します。

開設科目	国際経済学研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	田淵太一				

- 授業の概要** 自由貿易推進論の批判的検討。
- 授業の一般目標** 自由貿易推進論の意味を現実の世界経済と対比して考察する。
- 授業の計画 (全体)** 英文テキスト (約 250 ページ) を輪読する。1 週で 1 章分 (約 20 ページ) を報告してもらう。
- 成績評価方法 (総合)** 授業への参加姿勢, 報告等の日常的活動を評価する。授業への参加度 50 %, 受講者の発表 50 %。
- 教科書・参考書** 教科書: Free Trade under Fire, D.A.Irwin, Princeton UP, 2002 年
- メッセージ** 大学院レベルの経済理論の知識および英文読解力を要求します。国際経済学研究 A を履修した上で受講すること。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワーは後期開始後に発表します。

開設科目	国際メディア研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	マルク・レール				

- 授業の概要** 国際比較に基づいて新聞の歴史的発展、新聞市場の現状や将来性について理論的に分析。
- 授業の一般目標** 媒体論的アプローチによって新聞の特質を分析する。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：新聞の歴史的発展とメディア的構造を理解する。 **思考・判断の観点**：新聞の媒体としての役割について判断ができる。 **関心・意欲の観点**：新聞に包括的に関心を持つ。 **態度の観点**：自分の研究分野に新聞を活かす。 **技能・表現の観点**：専門的なレベルで新聞に関して議論ができる。
- 授業の計画（全体）** 1. 欧米と日本の新聞の歴史的発展。 2. 欧米と日本の新聞市場の現状。 3. 新聞紙面とジャーナリズム。 4. ニュースとニュースデザイン。 5. 新聞の将来。
- 成績評価方法（総合）** 授業の参加度（40％）＋レポート（60％）
- メッセージ** 毎回の授業の具体的な内容は、受講者の関心と専門知識レベルを参考にして調整する。
- 連絡先・オフィスアワー** loehr@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際メディア研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	マルク・レール				

- 授業の概要** 国際比較に基づいて放送メディアの歴史的発展、放送メディア市場の現状や将来性について理論的に分析することによって、放送メディアの特質を明らかにする。

開設科目	経済発展論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	経済発展論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	アジア経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	多国籍企業と世界経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	河野真治				

●**授業の概要** 多国籍企業が世界経済にどのような変化をもたらしているか検討する。具体的には次の諸点を問題とする。(1) 企業内国際分業が貿易に与える影響、(2) 直接投資が途上国の経済発展に与える効果、(3) 多国籍化と空洞化、(4) 先進国間投資とグローバル化、地域主義、(5) 多国籍企業間の競争、M & A、戦略的提携。／**検索キーワード** 直接投資

●**授業の一般目標** 直接投資に関する最新の情報を学ぶこと。

●**授業の計画（全体）** World Investment Report 2003、を読む。

●**成績評価方法（総合）** 授業中のレポートと、討論内容で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： World Investment Report 2003, UNCTAD

開設科目	国際産業研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	河野眞治				

- 授業の概要** いくつかの産業を取り上げて、現代における巨大企業間の国際競争の特徴を探り出す。検討するのは、自動車、半導体、電気通信、航空、コンピュータ、鉄鋼、石油などである。問題となるのは、直接投資、M & A、提携、国際的な工場配置、情報化等の諸点である。／**検索キーワード** 国際産業組織
- 授業の一般目標** 国際間の寡占企業間の競争の実態について学ぶ。
- 授業の計画 (全体)** 学生が自分で産業を選び、国際競争の実態について報告する。
- 成績評価方法 (総合)** レポートと討論内容で評価する。

開設科目	中国経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	陳建平				

- 授業の概要** 改革開放20年、中国が大きな変貌を遂げた。その中国経済の現在の到達点を文献等の精読を通じて把握し、21世紀の中国経済の展望について考える。
- 授業の一般目標** 今日の中国経済の成長と社会主義計画経済時代の経済発展との関連性について正しく理解する。
- 授業の計画（全体）** 文献資料等を講読する。
- 成績評価方法（総合）** 報告とレポートによって評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは受講者と相談の上決める。
- メッセージ** 文献資料の多くが中国語であるため、中国語の理解力が求められる。

開設科目	中国産業政策研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	陳建平				

- 授業の概要** 改革開放を通じて中国の産業構造は大きく変貌した。本講義では、中国の産業政策について取り上げ、文献等の精読を通じて認識を深める。
- 授業の一般目標** 中国の産業政策の現状と課題についての理解を深める。
- 授業の計画（全体）** 文献資料等の講読、それについての討論等を通じて中国の産業政策についての知識と識見を深める。
- 成績評価方法（総合）** 小テスト／授業内レポート = 50 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 50 % 出席 = 欠格条件
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは受講者と相談の上決める。
- メッセージ** 無断欠席しないこと。

開設科目	韓国経済論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	横田伸子				

- 授業の概要** 1997年の経済危機以降の韓国の経済構造改革について分析し、それが韓国経済社会の構造をどのように変えたのかを考察する。とくに、韓国社会を分析する際、ジェンダーの視点も取り入れる。
／検索キーワード 韓国経済、経済構造改革、経済危機、ジェンダー
- 授業の一般目標** 韓国の経済構造改革について理解し、把握する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。
思考・判断の観点： 1. テキストである社会科学専門書の内容を批判的に読解できる。
技能・表現の観点： 1. 客観的立場から、自己の議論を論理的に展開できる。
- 授業の計画（全体）** 韓国の構造改革に関する学術書や論文を各自に割り当て、その内容を整理し報告する。その報告を中心に討論する。
- 成績評価方法（総合）** 1. 報告 40 %、レポート 40 %、討論 20 %。前期に4回以上欠席した場合単位は与えない。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは適宜指示する。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワーはとくに設けません。E-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp
電話:083-933-5559

開設科目	韓国経済論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	
担当教官	横田伸子				

- 授業の概要** 1997年の経済危機以降の韓国の経済構造改革について分析し、それが韓国経済社会の構造をどのように変えたのかを考察する。とくに、韓国社会を分析する際、ジェンダーの視点も取り入れる。
／検索キーワード 韓国経済、経済構造改革、経済危機、ジェンダー
- 授業の一般目標** 韓国の経済構造改革について理解し、把握する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。
思考・判断の観点： 1. テキストである社会科学専門書の内容を批判的に理解できる。
技能・表現の観点： 1. 客観的立場から、自己の議論を論理的に展開できる。
- 授業の計画（全体）** 韓国の構造改革に関する学術書や論文を各自に割り当て、その内容を整理し報告する。報告を中心に討論を行う。
- 成績評価方法（総合）** 1. 報告 40%、レポート 40%、討論 20%。後期に4回以上欠席した場合、単位は与えない。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは適宜指示する。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワーはとくに設けない。E-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話:083-933-5559

開設科目	東アジア経済研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	尹春志				

●**授業の概要** 東アジアが今日直面している問題について、参加者との討論を交えて行う。

開設科目	東アジア経済研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	東アジア社会経済研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	李海峰				

●**授業の概要** 中国の市場経済発展と東アジア社会経済の構造変化を中心に分析し、検討する。／**検索キーワード** 社会経済の構造変化、消費生活の変貌、大衆消費社会、研究方法、

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 東アジア社会経済の構造変化
- 第 2 回 項目 外資、技術、経営システムの導入
- 第 3 回 項目 市場経済の発展と消費水準の上昇
- 第 4 回 項目 経済政策と消費社会の変化
- 第 5 回 項目 生活水準の向上と階層間格差の拡大
- 第 6 回 項目 消費市場の拡大と商業環境の変化
- 第 7 回 項目 情報環境の発達と消費者行動意識
- 第 8 回 項目 大衆消費社会の形成
- 第 9 回 項目 都市・農村間の格差拡大
- 第 10 回 項目 大量消費と東アジアの環境
- 第 11 回 項目 社会主義市場経済について
- 第 12 回 項目 研究方法の探索
- 第 13 回 項目 社会調査方法
- 第 14 回 項目 アンケートの設計
- 第 15 回 項目 統計的分析手法

●**メッセージ** 充実しておもしろい学問の道を探求しましょう、

開設科目	東アジア社会経済研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	李海峰				

●**授業の概要** 東アジアにおける開発と経済発展、地域格差、階層間格差を中心に理論と実証方法で検討する。／**検索キーワード** 東アジアにおける開発、経済発展と格差の拡大、理論と実証、

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 中国の市場経済 発展と東アジア の構造変化
- 第 2 回 項目 地域開発の課題
- 第 3 回 項目 経済成長と地域 格差
- 第 4 回 項目 政府の所得分配 政策と格差の拡大
- 第 5 回 項目 都市と農村の生活水準の変化
- 第 6 回 項目 地域間、階層間 格差の拡大
- 第 7 回 項目 人間開発と貧困
- 第 8 回 項目 人間開発とジェ ンダー
- 第 9 回 項目 農村開発と農業 生産性の向上
- 第 10 回 項目 社会開発と貧困 の解消
- 第 11 回 項目 地域経済圏形成 の課題
- 第 12 回 項目 社会主義市場経 済について
- 第 13 回 項目 研究方法の探索
- 第 14 回 項目 理論と実証方法
- 第 15 回 項目 社会調査と分析 方法

●**メッセージ** 充実しておもしろい学問の道を探求しましょう、

開設科目	台湾経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	陳禮俊				

●**授業の概要** 戦後台湾は目覚ましい経済発展を成し遂げている。特に1980年代の初頭から、台湾、韓国、香港、シンガポールなどの4ヶ国・地域はアジアNIEsの姿で、世界経済の舞台に登場して以来、それぞれの経済発展と政治の動きは世界の人々の注目を集めた。そしてアジアNIEsの内、台湾の工業化、都市化による経済成長のパターンは「発展途上国の模範」といわれているが、発展途上諸国の工業化における経済政策に大きな示唆を示している。しかし、18世紀産業革命以降、欧米先進工業諸国は急激な技術革新及び工業化の成果を享受しながら、自然環境変化による莫大な被害を経験してきた。この背景に1960年代後半から、環境保護は盛んに行われているが、この時期ちょうどアジアNIEs工業化の離陸期であり、欧米先進工業諸国から工業化による経済豊かさの情報のみを取り入れ、環境問題をほぼ無視した状態で工業化、都市化を進んできた。その影響はそれぞれの国・地域によって、多少時間のずれはあるが、1980年代を中心にアジア諸国の環境問題は浮上しているが、台湾も例外ではない。本授業は戦前、戦後台湾経済発展の軌跡を辿りながら、台湾の工業化及び都市化が特徴を纏め、それに伴う環境・エネルギー問題を中心に分析し、従来の新古典派などの成長理論と異なる視点を用いて、新たな開発経済学の研究領域を模索する。そして授業のねらいは「環境に優しい経済発展」のモデルを考察することにした。

●**授業の計画(全体)** 1 戦前、戦後台湾の経済発展過程の考察 2 戦前、戦後台湾の工業化、都市化の考察 3 工業化、都市化の現状及びそれに伴う環境・エネルギー問題の考察 4 諸学派の「成長理論」及び「台湾モデル」の考察

●**成績評価方法(総合)** 1 期末試験 2 レポート(レポートを重視する)

●**教科書・参考書** 教科書：テキストは特に指定せず、授業中に随時プリントを配布する。／参考書：1 隅谷三谷男・劉進慶等『台湾の経済—典型NIESの光と影—』東京大学出版会 1992年2月 2 劉進慶『NIESの構造と問題点(2)—戦後台湾経済の発展過程—』、本多健吉編著 3 渡辺利夫著『開発経済学—経済学と現代アジア』日本評論社、1986年5月 4 石田浩著『台湾経済の構造と展開—台湾「開発独裁」のモデルか—』大月書店、1999年3月 5 朝元照雄『現代台湾経済分析—開発経済学からのアプローチ』、勁草書房、1996年3月 6 施昭雄・朝元照雄著『台湾経済論—経済発展と構造転換—』勁草書房、1999年4月 7 その他、授業の内容合わせて、案内する。

●**連絡先・オフィスアワー** 1 連絡の上、随時歓迎 2 気楽に授業に来て下さい。

開設科目	華僑経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	アジア環境政策研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	国際金融研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	瀧口治				
<p>●授業の概要 国際通貨制度の歴史の変遷</p> <p>●授業の一般目標 国際通貨制度を3つのポイント（国際流動性供給、信認の確保、国際収支不均衡是正）から評価し、現行の国際通貨制度の抱える問題点を分析し、望ましい国際通貨制度のを探求する。</p> <p>●授業の計画（全体） 受講者数によって異なるが、ゼミ形式を基本とする。授業の大きな項目については概説を教師側が行い、その後教科書や配布資料等に沿って輪番で受講者が報告する。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 I. はじめに I-1. 国際通貨制度の概要 内容 現行の IMF を中心とした国際通貨体制の概要</p> <p>第 2 回 項目 I-2. 国際通貨制度の歴史の変遷 内容 第二次世界大戦をはさんだ国際通貨制度の歴史の概略</p> <p>第 3 回 項目 II. 第二次世界大戦前の国際通貨制度について II-1. 金本位制度について 内容 複数本位制、グレシャムの法則について</p> <p>第 4 回 項目 同上 内容 金本位制度成立前後の諸論争</p> <p>第 5 回 項目 II-2. 戦間期の国際通貨制度 内容 再建金本位制、金本位制の崩壊、管理フロート制</p> <p>第 6 回 項目 III. 第二次世界大戦後の IMF 体制下の国際通貨制度 III-1. 固定為替相場制時代の IMF 制度 内容 当初の IMF 制度の仕組み</p> <p>第 7 回 項目 同上 内容 制度外の補強対策 スミソニアン協定</p> <p>第 8 回 項目 III-2. 変動為替相場制時代の IMF 制度 内容 1970 年代の変動為替相場制</p> <p>第 9 回 内容 1980 年代の変動為替相場制 1990 年代以降の変動為替相場制</p> <p>第 10 回 項目 III-3. SDR 制度 内容 固定相場制から変動相場制への移行と SDR 制度の変容</p> <p>第 11 回 項目 III-4. 欧州における通貨統合 内容 欧州通貨制度 (EMS) 成立（1979年3月）以前の通貨統合への動き</p> <p>第 12 回 項目 同上 内容 EMS 時代</p> <p>第 13 回 項目 同上 内容 経済・通貨同盟 (EMU) 成立（1999年1月）以降</p> <p>第 14 回 項目 III-5. アジアにおける地域金融協力と通貨統合の動きについて 内容 アジア通貨基金 (AMF) 構想</p> <p>第 15 回 項目 同上 内容 同上</p> <p>●成績評価方法（総合） 出席 20 %、報告 20 %、小テスト 20 %、レポート 40 %</p> <p>●教科書・参考書 教科書：グローバル資本と国際通貨システム, B. アイケングリーン, ミネルヴァ書房, 1999 年；講義内容にかかわり部分的に用いる他の教科書や論文については、開講後コピーを配布します。／参考書：国際通貨体制成立史上・下, R.N. ガードナー, 東洋経済新報社；21 世紀の国際通貨制度, B. アイケングリーン, 岩波書店, 1997 年；21 世紀の国際通貨システム, プレトンウッズ委員会, 金融財政事情研究会, 1996 年；国際政治経済システム I、II, 鴨・伊藤・石黒編, 有斐閣, 1997 年；国際政治経済システム III、IV, 鴨・伊藤・石黒編, 有斐閣, 1999 年；講義内容にかかわり部分的に用いる他の参考書・論文・資料については、開講後コピーを配布します。</p> <p>●メッセージ 応用経済学であることを理解して、ミクロ経済学やマクロ経済学等の基礎理論をマスターしていない受講希望者は、独学や学部関連授業の履修等努力すること。将来ボディブローのように効いてきます。</p> <p>●連絡先・オフィスアワー E-mail: osamu@yamaguchi-u.ac.jp 電話: 5 5 4 1 または 5 5 0 1 オフィス・アワー開講後設定 学内連絡場所：A403 研究室または学部長室（A 棟 2 F）</p>					

開設科目	国際金融研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	瀧口治				

●**授業の概要** 1973年に世界の為替相場が変動相場制に移行し、その後の経済の国際化の進展と、資本取引の自由化に伴う国際間の資本移動の激化は1997年のアジアを舞台にした国際金融危機を惹起した。1999年1月1日からEUの統一通貨ユーロが誕生して、ドルに次ぐ国際通貨としてその帰趨が注目されている。国際金融現象は確実にその複雑さを増してきている。本講義ではこのような現実の動きを正確に理解するために、国際金融理論を学習する。

●**授業の一般目標** 前期の国際金融研究Aにおいては国際通貨制度の歴史的変遷と各時代における国際金融の制度的枠組みを学習した。本講義ではこの国際金融の制度および歴史の学習を前提として、国際化した時代の各国経済の相互依存関係を正しく理解するために国際マクロ経済理論を学び、現行の変動相場制下の経済問題に対応できるようにするために為替に関する諸理論を学習する。

●**授業の計画(全体)** 受講者数によって異なるが、ゼミ形式を基本とする。テキストや配布資料を用いながら以下の項目について輪番で受講者が報告し、いくつかの項目については教師がわが講義する。講義は概略次の項目について行う。国際収支概念、国際収支表の基本概念、国民所得勘定と国際収支、開放経済における所得決定経常収支の短期理論、経常収支の中・長期理論、為替取引と為替相場、為替相場決定理論、為替政策

●**成績評価方法(総合)** 出席20%、報告30%、小テスト20%、レポート(宿題を含む)30%

●**教科書・参考書** 教科書：現代国際金融論(新版)、上川・藤田・向編、有斐閣ブックス、2003年；新版国際金融論、尾上修悟編著、ミネルヴァ書房、2003年；講義内容にかかわり部分的に用いる他の教科書や論文については、開講後コピーを配布します。／参考書：入門国際金融(第2版)、高木信二、日本評論社、1999年；講義内容にかかわり部分的に用いる他の参考書や論文・資料については、開講後コピーを配布します。

●**メッセージ** マクロ経済学と簡単な微分については理解しておくこと。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:osamu@yamaguchi-u.ac.jp 電話:5541 または 5501 オフィス・アワー：開講後設定 学内連絡場所：A403 研究室または学部長室(A棟2F)

開設科目	国際通商政策研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	藤原貞雄				

- 授業の概要** 今年度は、中国のWTO加盟議定書（英文、中文）を中心に講義する。前後期続（A、B）受講することが望ましい。

開設科目	国際通商政策研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	藤原貞雄				

- 授業の概要** 国際通商政策 A とセットになっているので、そちらのシラバスを参考のこと。B だけの受講は認めない。

開設科目	グローバル企業研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	藤原貞雄				

●授業の概要 今年度は開講しない。

開設科目	海運論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	澤 喜司郎				

- 授業の概要** 数学的手法をもちいた海運経済学の諸理論について学習します。この講義では経済学だけでなく、数学や統計学の基礎知識も必要とされます。
- 授業の一般目標** 海運諸理論の理解を目指します。
- 授業の計画（全体）** 講義は、下記のテキストの前半部分に沿って講読と報告の形式で進めます。主な講義内容（テキスト）の内容は、以下の通りです。
 - ・ Relevant aspects of analytical geometry
 - ・ Probability theory and distributions
 - ・ Basic economic relationships
 - ・ The demand and supply of sea transport
 - ・ Optimum speed of ships
 - ・ Ship's cost
 - ・ Freight futures
 - ・ The optimum size of ships
 - ・ Liner freight rates
- 成績評価方法（総合）** 成績評価は、学期末のレポート（20,000 字以上）によって行います。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは、J.J.Evans and P.B. Marlow, Quantitative Methods in Maritime Economics, 1990. を使用します。受講者は各自で購入しておくこと。
- メッセージ** 毎時間、テキストを 20 ページ程度読み、受講生には毎回全訳文の提出を義務づけます。

開設科目	海運論研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	澤 喜司郎				

- 授業の概要** 海運論研究 A に続けて、数学的手法をもちいた海運経済学の諸理論について学習します。この講義は海運論研究 A の単位を修得していることが受講の条件になります。
- 授業の一般目標** 海運諸理論の習得を目指します。
- 授業の計画 (全体)** 講義は、下記のテキストの後半部分に沿って講読と報告の形式で進めます。主な講義内容 (テキスト) の内容は、以下の通りです。
 - ・ Linear programming and transportation
 - ・ Regression and correlation
 - ・ Decision theory
 - ・ The theory and practice of index numbers
 - ・ Currency, bunker and inflation differential factors
 - ・ Investment appraisal in shipping
 - ・ Replacement, obsolescence and modifications of ships
 - ・ Shipping and the balance of payments
 - ・ Calculations in shipping economics
- 成績評価方法 (総合)** 成績評価は、学期末のレポート (20,000 字以上) によって行います。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは、J.J.Evans and P.B. Marlow, Quantitative Methods in Maritime Economics, 1990. を使用します。
- メッセージ** 毎時間、テキストを 20 ページ程度読み、受講生には毎回全訳文の提出を義務づけます。

開設科目	交通論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	澤 喜司郎				

- 授業の概要** 交通現象や人々の交通行動を研究するための基礎としての交通計量経済学について学習します。この講義では経済学だけでなく、交通工学の基礎知識も必要とされます。
- 授業の一般目標** 交通計量経済学の諸手法の習得を目指します。
- 授業の計画（全体）** 講義は、下記のテキストの前半部分に沿って講読と報告の形式で進めます。主な講義内容（テキスト）の内容は、以下の通りです。 Part A : The Traffic analysis process Part B : Basic Traffic Theory / Basic traffic flow theory
- 成績評価方法（総合）** 成績評価は、学期末のレポート（20,000 字以上）によって行います。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは、M.A.P.Taylor, W.Young and P.Bonsall, Understansing Traffic Systems,1996 を使用します。受講者は各自で購入しておくこと。／参考書：参考書は、澤 喜司郎『交通計量経済学』成山堂書店、平成 9 年を使用します。受講者は各自で購入し、開講までにすべてを読んしておくこと。
- メッセージ** 毎時間、テキストを 20 ページ程度読み、受講生には毎回全訳文の提出を義務づけます。

開設科目	交通論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	澤 喜司郎				

- 授業の概要** 交通論研究Aに続き、交通現象や人々の交通行動を研究するための基礎としての交通計量経済学について学習します。この講義では経済学だけでなく、交通工学の基礎知識も必要とされます。なお、本講義の履修には、交通論研究Aを履修してあることが前提条件となります。
- 授業の一般目標** 交通計量経済学の諸手法の習得を目指します。
- 授業の計画（全体）** 講義は、下記のテキストの後半部分に沿って講読と報告の形式で進めます。主な講義内容（テキスト）の内容は、以下の通りです。Part C : Principles of survey planning and management / Road safety and accident analysis Part D : Statistical analysis / Statistical modelling
- 成績評価方法（総合）** 成績評価は、学期末のレポート（20,000字以上）によって行います。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは、M.A.P.Taylor, W.Young and P.Bonsall, Understanding Traffic Systems,1996を使用します。／参考書：参考書は、澤 喜司郎『交通計量経済学』成山堂書店、平成9年を使用します。
- メッセージ** 毎時間、テキストを20ページ程度読み、受講生には毎回全訳文の提出を義務づけます。

開設科目	中国近現代文化の研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	齊藤匡史				

- 授業の概要** 本科目は中国近代を社会、文化の側面から考察し、中国「近代」を捉えようとするものである。具体的には租界都市「上海」の成立と発展をつぶさにたどり、社会、文化を検証しつつ、今日的な視点からその位置づけを再考する。

開設科目	中国近現代文化の研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	齊藤匡史				

- 授業の概要** 本科目は中国「現代」を社会、文化の側面から考察し、中国「現代」を検証の中から再構築しようとするものである。具体的には上海の革命後の歩んだ道のりをたどり、その社会、文化の検証の中から、中国「現代」の本質を探る。

開設科目	時間論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	正宗聡				

- 授業の概要** 「時間」をテーマとした、哲学、現代思想の書物を熟読し、その内容について議論する授業である。
- 授業の一般目標** 「時間」について、自分なりの問いを持つこと。
- 授業の計画（全体）** 予習を課した部分を、講師が試訳をする。それを聴きながら、受講生は自らの訳を添削する。その後、講師とともに、内容について議論する。
- 成績評価方法（総合）** 毎回の出席、授業態度、定期試験。それぞれ、30%ずつである。
- 教科書・参考書** 教科書： 毎回コピーを配布する。
- メッセージ** 難しいテキストを使用しますが、「時間」の周辺領域も含め、とにかく勉強に励んでください。

開設科目	時間論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	正宗聡				

●授業の概要 2003 年度開講しません。

開設科目	可能世界論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	正宗聡				

●授業の概要 「可能」と「潜在」をめぐって考察する。／検索キーワード 真剣に授業に臨むこと。

開設科目	政治理論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	
担当教官	渡邊幹雄				

●**授業の概要** 現代リベラリズムの再検討。リベラリズムはさしあたり種々のイデオロギー闘争を勝ち抜いた1つの政治的イデオロギーであり、コミュニズム亡き後、その指導的イデオロギーとしての地位を確固たるものにした感がある。しかし、欧米、そして日本においても、勝利したイデオロギーとしてのリベラリズムに対する異議申し立てが次々となされており、リベラリズムの現状的地位が安泰なわけではない。／**検索キーワード** 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

●**授業の一般目標** 例年、政治学の主要テーマに手広く言及する講義を続けてきたが、本年度は、リベラリズムの問題に特化して、それを中心に政治学全体を見渡すことを考えている。問題の焦点を明らかにして、さまざまな政治理論についての総合的な理解を目指す。

●**授業の計画（全体）** リベラリズムの歴史・成立を振り返り、そこに内在する問題点を明らかにした上で、さまざまな理論のリベラリズム批判を検討してゆく。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第1回 項目 リベラリズム前史（1）

第2回 項目 同上（2）

第3回 項目 同上（3）

第4回 項目 リベラリズムとその哲学的基礎（1） 内容 J・S・ミルと J・ロールズを

第5回 項目 同上（2）

第6回 項目 同上（3）

第7回 項目 リベラリズムのさまざまな形態（1） 内容 リバタリアニズム

第8回 項目 同上（2） 内容 社民主義

第9回 項目 同上（3） 内容 卓越主義

第10回 項目 政治的リベラリズムとポストモダン・リベラリズム（1） 内容 J・ロールズと R・ローティを中心に

第11回 項目 同上（2）

第12回 項目 同上（3）

第13回 項目 リベラリズムに対するさまざまな批判（1） 内容 共同体論・保守主義

第14回 項目 同上（2） 内容 共和主義

第15回 項目 同上（3） 内容 フェミニズム・多文化主義

●**成績評価方法（総合）** 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度などを総合的に判断して評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：とくに指定しない。／参考書：講義中に適宜指示する。

●**メッセージ** 日本語を十分に操り、英語を十分に読みこなせる能力は最低限必要である。英語を苦手とする学生はご遠慮いただきたい。また、日本語についても、哲学的議論に参加できる語彙力が求められるので、市販されている哲学書などには目を通していただきたい。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	政治理論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	
担当教官	渡邊幹雄				

●**授業の概要** 現代リベラリズムの再検討。リベラリズムはさしあたり種々のイデオロギー闘争を勝ち抜いた1つの政治的イデオロギーであり、コミュニズム亡き後、その指導的イデオロギーとしての地位を確固たるものにした感がある。しかし、欧米、そして日本においても、勝利したイデオロギーとしてのリベラリズムに対する異議申し立てが次々となされており、リベラリズムの現状的地位が安泰なわけではない。／**検索キーワード** 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

●**授業の一般目標** 例年、政治学の主要テーマに手広く言及する講義を続けてきたが、本年度は、リベラリズムの問題に特化して、それを中心に政治学全体を見渡すことを考えている。問題の焦点を明らかにして、さまざまな政治理論についての総合的な理解を目指す。

●**授業の計画（全体）** リベラリズムの歴史・成立を振り返り、そこに内在する問題点を明らかにした上で、さまざまな理論のリベラリズム批判を検討してゆく。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第1回 項目 リベラリズム前史（1）

第2回 項目 同上（2）

第3回 項目 同上（3）

第4回 項目 リベラリズムとその哲学的基礎（1） 内容 J・S・ミルと J・ロールズを

第5回 項目 同上（2）

第6回 項目 同上（3）

第7回 項目 リベラリズムのさまざまな形態（1） 内容 リバタリアニズム

第8回 項目 同上（2） 内容 社民主義

第9回 項目 同上（3） 内容 卓越主義

第10回 項目 政治的リベラリズムとポストモダン・リベラリズム（1） 内容 J・ロールズと R・ローティを中心に

第11回 項目 同上（2）

第12回 項目 同上（3）

第13回 項目 リベラリズムに対するさまざまな批判（1） 内容 共同体論・保守主義

第14回 項目 同上（2） 内容 共和主義

第15回 項目 同上（3） 内容 フェミニズム・多文化主義

●**成績評価方法（総合）** 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度などを総合的に判断して評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：とくに指定しない。／参考書：講義中に適宜指示する。

●**メッセージ** 日本語を十分に操り、英語を十分に読みこなせる能力は最低限必要である。英語を苦手とする学生はご遠慮いただきたい。また、日本語についても、哲学的議論に参加できる語彙力が求められるので、市販されている哲学書などには目を通していただきたい。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	憲法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	憲法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	憲法研究C	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	柳井健一				

- 授業の概要 憲法学
- 授業の一般目標 憲法学の基礎的な理論や概念について修得する
- 授業の計画（全体） 参加者の希望を聞いた上で決定する
- 教科書・参考書 教科書：開講時に指示する。

開設科目	憲法研究D	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	柳井健一				

- 授業の概要 憲法学
- 授業の一般目標 憲法学の基礎的な理論や概念について修得する
- 授業の計画（全体） 参加者の希望を聞いたうえで決定する
- 教科書・参考書 教科書：開講時に指示する

開設科目	行政法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	上杉信敬				

- 授業の概要** 行政救済法の法理について深める. 行政不服審査や行政訴訟について行うか、国家補償について行うか、実体法理や組織法について行うかについては、個別に協議して決める.

開設科目	行政法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	上杉信敬				

- 授業の概要** 行政救済法の法理について深める. その際、国家補償について行うか、行政訴訟、行政不服審査について行うか、等については、組織法などについて行うかとも含めて、協議して決めたい.

開設科目	現代行政法研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	鈴木眞澄				

●**授業の概要** わが国の行政をめぐる状況は、一方では新自由主義の下で“小さな政府”論と、他方における“地方分権”という、二つの潮流のただ中にある。この講義では、こうした状況を踏まえながら、具体的な問題を素材にして行政法を考えていく。

●**メッセージ** 絶えず、行政をめぐる情報に注意を向けて欲しい。

開設科目	応用行政法研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	鈴木真澄				

●**授業の概要** 「現代行政法」での問題意識をさらに発展させ、より具体的な問題点を検討する。

●**メッセージ** 日々のニュースに敏感であって欲しい。

開設科目	税法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	
担当教官	諸岡健一				

●**授業の概要** 企業が経済活動を行っていくさい、税は最終利益に最も影響するコストとして認識されているほか、あらゆる経営判断に少なからぬ影響を及ぼしています。このため、税法を理解している人に対するニーズは、大きいものがあります。ところが、日本のほとんどの大学では、税法の体系だった授業を行っていないため、税法を法律として学ぶ機会を持たないまま、大学を卒業する方が少なくありません。そのような人を対象に、法人にかかる税について、国税通則法、法人税法、消費税法のほかに、国際租税法などを全般的に勉強していきます。

●**授業の一般目標** 国税通則法と法人税法を中心に、企業にかかる税に関する法律の基本的な理解を目標としていきます。

●**授業の計画（全体）** 日本の租税法体系、法人税法、消費税法、国際租税法という順序で授業を進めます。限られた時間ですが、企業取引に関係して必須とされる税法に重点を置いて、授業を進める予定です。

●**成績評価方法（総合）** 出席状況、受講態度、レポート等を総合的に評価します。

●**教科書・参考書** 教科書：国税庁税務大学校作成の教科書（「国税通則法」、「法人税法」）をダウンロードして、使用します。／参考書：学生の法律に関する理解度を参考に、追って指示します。インターネット上（財務省・国税庁）の資料を多用します。「小六法」など、基本的な税法の規定が省略されない形で収録されている法律集が必要です。

●**メッセージ** 税法はわが国の行政法体系の中でも、特に大きな法体系です。受講に当たって会計学の知識が必要とされますが、それ以上に行政法の知識が必要とされます。

●**連絡先・オフィスアワー** morooka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	税法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	諸岡健一				

- 授業の概要** 企業にかかる税のうち、特に法人税法と、それに関連した租税特別措置法などの法令の理解を深めるため、判例研究など演習を主体とした授業を進めていきます。
- 授業の一般目標** 資産の評価、利益配当、企業再編成など、法人税法の中でも本質的テーマについて理解する。
- 授業の計画（全体）** テーマごとに裁判例や国税不服審判所の裁決例を利用して、授業を進めていく。
- 成績評価方法（総合）** 出席状況、受講態度、レポート等を総合的に評価します。
- 教科書・参考書** 教科書：平成16年度版法人税法（平成16年7月出版予定）、渡辺淑夫、中央経済社、2004年
- メッセージ** 受講を希望される方は、「税法研究A」の受講をしてください。
- 連絡先・オフィスアワー** morooka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	民法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	平中貫一				

- 授業の概要 契約の正義／検索キーワード 契約
- 授業の一般目標 契約の正義を探求する。
- 授業の計画（全体） 1 契約の歴史 2 契約の哲学 3 契約の正義

開設科目	民法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	平中貫一				

●授業の概要 不法行為の正義／検索キーワード 不法行為

●授業の一般目標 不法行為の正義を探求する。

●授業の計画（全体） 1 不法行為の歴史 2 不法行為の哲学 3 不法行為の正義

開設科目	民法研究C	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	三間地光宏				

- 授業の概要** 不法行為に関する判例・裁判例を検討する。
- 授業の一般目標** 判例・裁判例を分析する能力を身につける。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：判例・裁判例を読んで理解できるようになること。 **思考・判断の観点**：判例・裁判例を分析・検討する能力を身につけること。 **関心・意欲の観点**：報告を担当する場合には関連する判例や文献を十分調べてくること。 **態度の観点**：報告があたっていない場合でも積極的に発言すること。
- 授業の計画（全体）** 毎回報告者にひとつの判例を選んで報告してもらう。
- 教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：適宜指示する。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワーは未定。

開設科目	民法研究D	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	三間地光宏				

●**授業の概要** 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (1)
- 第 2 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (2)
- 第 3 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (3)
- 第 4 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (4)
- 第 5 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (5)
- 第 6 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (6)
- 第 7 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (7)
- 第 8 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (8)
- 第 9 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (9)
- 第 10 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (10)
- 第 11 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (11)
- 第 12 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (12)
- 第 13 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (13)
- 第 14 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (14)
- 第 15 回 項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討 (15)

開設科目	民法研究E	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	油納健一				

- 授業の概要** 民法が対象とする多くの法律問題を解決するためには、民法典上の規定を解釈しかつ適用するという作業が必要である。しかし、日本民法典は明治に施行された法律であるためいくつかの規定が時代に適しくなくなっていること、あるいは複雑な現代社会においては起草者が予想していなかった法律問題も生じていることから、判例は今日ますます重要になってきていると言えよう。そこで、今日の民法上の法律問題を解決し、かつ今日の民法を知るためには、判例の検討が必要と考えられることから、この授業では、日本民法典(民法の規定)と従来の判例・学説

開設科目	民法研究F	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	油納健一				

●**授業の概要** 民法が対象とする多くの法律問題を解決するためには、民法典上の規定を解釈しかつ適用するという作業が必要である。しかし、日本民法典は明治に施行された法律であるためいくつかの規定が時代に適しにくくなっていること、あるいは複雑な現代社会においては起草者が予想していなかった法律問題も生じていることから、判例は今日ますます重要になってきていると言えよう。そこで、今日の民法上の法律問題を解決し、かつ今日の民法を知るためには、判例の検討が必要と考えられることから、この授業では、日本民法典(民法の規定)と従来の判例・学説を踏まえた上で最近の判例を検討しようと思う(但し、受講生の意見も参考にした上で、授業の内容を若干変更することも考えている)。

●**授業の一般目標** 法学の基礎知識と、法的に考える能力を身につける。

●**授業の計画(全体)** 最初の授業で説明するが、受講生と相談して決めたい。

●**成績評価方法(総合)** 出欠や遅刻早退の有無・報告内容・発言内容・関心態度などを総合的に判断して、評価する。3回以上無断で欠席した者には、単位を認定しない。また、学習意欲のない者・他のゼミ生に迷惑をかける者・教官の指示に従わない者にも、単位を認定しない。

●**教科書・参考書** 教科書：適宜指示する。／参考書：適宜指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** yuno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	企業法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	一ノ澤直人				

●**授業の概要** 本年度は、企業法の中でも改正が進む会社法について研究する。会社法の諸制度を機能的に理解し、日々変化している企業のあり方や会社を取り巻く社会状況を踏まえ、適正な会社法制度のあり方を探究したい。／**検索キーワード** 会社法、企業法、コーポレートガバナンス

●**教科書・参考書** 教科書: The Reform of United Kingdom Company Law, John de Lacy (ed), Cavendish Publishing Limited, 2002 年 ; 判例六法 平成 1 5 年度版, 青山義充他編, 有斐閣, 2002 年

●**メッセージ** 受講者は、会社法関連のテーマ・判例を中心に、自己の関心・問題意識から、とくに本講義で検討したい点を、幾つか考えておくこと。

開設科目	企業法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	独占禁止法研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	平野充好				

●**授業の概要** 今年度は、独占禁止法と私法秩序に関連する諸問題を検討する。独占禁止法は競争秩序を維持する方であるが、法規制の様々な局面で私法秩序に関わる問題がある。例えば、独占禁止法違反行為の私法上の効力を差止請求、さらには、純粋持株会社の解禁と会社法上の問題等がある。これらの諸問題を検討しつつ、競争秩序と私法秩序の関連について考えたい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 独占禁止法に関する基本問題
- 第 2 回 項目 私的独占と審判例
- 第 3 回 項目 不当な取引制限と私的独占
- 第 4 回 項目 入札談合と公共契約
- 第 5 回 項目 事業者団体規制
- 第 6 回 項目 独占禁止法違反行為の私法上の効力
- 第 7 回 項目 独占禁止法違反行為の差止請求
- 第 8 回 項目 持株会社規制
- 第 9 回 項目 純粋持株会社と会社法上の問題
- 第 10 回 項目 審判決研究
- 第 11 回 項目 審判決研究
- 第 12 回 項目 審判決研究
- 第 13 回 項目 審判決研究
- 第 14 回 項目 審判決研究

開設科目	経済法研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	国際取引契約研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	小林一子				

●**授業の概要** 各種英文国際取引契約の実例に基づき、契約条項の存在意義、その解釈、果たすべき役割・機能等をリスクマネジメントの観点から考察する。なお授業の始めに3分間スピーチを毎回行うので、テーマにつき必ず入念な事前準備をしておくこと。／**検索キーワード** 英文・国際取引契約（国際売買契約、国際技術援助・提携契約）

●**授業の一般目標** 英文による、リスクマネジメント対策のできた国際取引契約書が、自ら作成できることを目標にする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英文の国際取引契約に盛り込むべき絶対的必要な事項の理解、チェックポイントの把握。**思考・判断の観点**：有利事項の表現、そのさりげない織り込みと妥協点の判断。バランス感覚の養成。**関心・意欲の観点**：英文契約書に対する深い関心と自分で作成したいとする強い意欲。英文アレルギーの学生は遠慮されたい。**態度の観点**：積極的授業参加意欲。**技能・表現の観点**：英文による、両当事者が納得する表現方法の工夫。

●**授業の計画（全体）** 国際売買契約、国際技術援助・提携契約概論にそれぞれ触れた後、実際の英文契約書の読解を試み、自ら作成できるようにする。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 同左
- 第2回 項目 国際売買契約概論 内容 インコタームズ 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第3回 項目 国際売買契約概論 内容 国際売買契約の流れ 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第4回 項目 国際売買契約概論 内容 貿易代金の決済 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第5回 項目 国際売買契約概論 内容 国際物品運送 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第6回 項目 国際売買契約概論 内容 国際貨物保険 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第7回 項目 国際売買契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第8回 項目 国際売買契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第9回 項目 国際売買契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第10回 項目 国際売買契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第11回 項目 国際売買契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第12回 項目 国際技術移転契約概論 内容 知的財産権と技術移転契約 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第13回 項目 国際技術移転契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第14回 項目 国際技術移転契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第15回

●**成績評価方法（総合）** 全出席が当然だが、構成は、出席点20%、積極的授業参加意欲の現れ20%、英文契約書作成能力等理解・発表能力40%、レポート作成能力等20%の総合評価。

●**教科書・参考書** 参考書：国際取引法に関する基本的参考書、授業のとき、その都度指示する。

●**メッセージ** 実践に役立つ、実践的研究を行う。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室C 218

開設科目	国際投資契約研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	小林一子				

●**授業の概要** 英文国際投資契約の実例に基づき、契約条項の存在意義、その解釈、果たすべき役割・機能等をリスクマネジメントの観点から考察する。なお授業の始めに3分間スピーチを毎回行うので、テーマにつき必ず入念な事前準備をしておくこと。／**検索キーワード** 英文・国際投資契約 合弁契約

●**授業の一般目標** 英文による、リスクマネジメント対策のできた国際投資契約書が、自ら作成できることを目標にする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英文の国際投資契約に盛り込むべき絶対的の必要事項の理解、チェックポイントの把握。**思考・判断の観点**：有利事項の表現、そのさりげない織り込みと妥協点の判断。バランス感覚の養成。**関心・意欲の観点**：英文契約書に対する深い関心と自分で作成したいとする強い意欲。英文アレルギーの学生は遠慮されたい。**態度の観点**：積極的授業参加意欲。**技能・表現の観点**：英文による、両当事者が納得する表現方法の工夫。

●**授業の計画（全体）** 海外投資概論から始めて、実際の英文投資契約書の読解を試み、自ら作成できるようにする。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 同左
- 第2回 項目 国際投資契約概論 内容 海外投資の法形態 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第3回 項目 国際投資契約概論 内容 直接投資 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第4回 項目 国際投資契約概論 内容 投資環境・事業性調査 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第5回 項目 国際投資契約概論 内容 投資環境・事業性調査 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第6回 項目 国際投資契約概論 内容 合弁契約 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第7回 項目 国際投資契約概論 内容 合弁契約 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第8回 項目 国際投資契約概論 内容 投資の保護と奨励策 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第9回 項目 国際投資契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第10回 項目 国際投資契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第11回 項目 国際投資契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第12回 項目 国際投資契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第13回 項目 国際投資契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第14回 項目 国際投資契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第15回

●**成績評価方法（総合）** 全出席が当然だが、構成は、出席点20%、積極的授業参加意欲の現れ20%、英文契約書作成能力等理解、発表力40%、レポート作成能力20%の総合評価。

●**教科書・参考書** 参考書：国際取引法に関する基本的参考書、授業のとき、その都度指示する。

●**メッセージ** 実戦に役立つ、実践的研究を行う。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室C 218

開設科目	証券取引法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	証券取引法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	保険法研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	保険法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	雇用関係法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柳澤旭				

●**授業の概要** 本講義は、労働法の領域の中でも、集団的労使関係の法以外の部分（個別的労働関係の法および雇用保障関係の法）を対象とするものである。近年なされてきたこの領域についての法改正の問題を中心に、検討をし、今日の雇用関係法の問題状況を受講生に理解してもらう。／**検索キーワード** 雇用、法。

●**メッセージ** 毎回きちんと出席し、きちんとした報告と活発な議論を期待する。

開設科目	雇用関係法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柳澤旭				

●**授業の概要** 労働法と社会保障法の関係について具体的問題領域を対象に問題点を検討する。

●**メッセージ** 各自の研究目的に沿って対象領域を検討する予定です。

開設科目	社会保障法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有田謙司				

- 授業の概要** 少子高齢化が進むわが国における社会保障法、特に、所得保障の法領域の現代的な課題について講義する。
- 授業の一般目標** 少子高齢化が進むわが国における社会保障法、特に、所得保障の法領域の現代的な課題について受講者が一定の見識を持つことを目標とする。
- 授業の計画（全体）** 社会保障法総論、所得保障法（年金保険法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法）、所得保障法の課題
- 成績評価方法（総合）** 出席と報告内容、議論への参加の度合いによって評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：開講時に指示する。／参考書：授業中に適宜指示する。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室在室時随時。 arita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	社会保障法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	有田謙司				

- 授業の概要** 少子高齢化が進むわが国における社会保障法、特に、社会福祉サービスの法領域における現代的な課題について講義する。
- 授業の一般目標** 少子高齢化が進むわが国における社会保障法、特に、社会福祉サービスの法領域における現代的な課題について、受講者が一定の見識を持つことを目標とする。
- 授業の計画（全体）** 社会福祉サービス法（社会福祉法、児童福祉法、介護保険法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉法）、社会福祉サービス法の課題
- 成績評価方法（総合）** 出席と報告内容、議論への参加の程度により評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：開講時に指示する。／参考書：授業時間中に適宜指示する。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室在室時随時。 arita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	刑事法研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	刑事法研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	外国文献研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	藤田健				

●**授業の概要** マーケティング・流通分野でホットトピックの一つとなっている「サプライチェーン」に関する英語文献を輪読する。／**検索キーワード** 流通, サプライチェーン, マーケティング, ロジスティクス

●**授業の一般目標** 1. サプライチェーンとは何かを理解する。 2. サプライチェーンの分析枠組みを理解する。

●**授業の計画 (全体)** 1.Introduction: What is Supply Chain Management 2.Supply Chain in the Global Environment 3.The Consequences of Supply Chain Management 4.The Role of Marketing in Supply Chain Management 5.The Dynamic Role of the Sales Function in Supply Chain Management 6.Research and Development in Supply Chain Management 7.Improving Supply Chain Forecasting 8.The Evolution and Growth of Production in Supply Chain Management 9.Purchasing in a Supply Chain Context 10.The Role of Logistics in the Supply Chain 11.The Evolution and Growth of Information Systems in Supply Chain Management 12.Financial Issues of Supply Chain Management 13.Customer Service in a Supply Chain Context 14.Inter-functional Coordination in Supply Chain 15.Inter-Corporate Coordination in Supply Chain

●**成績評価方法 (総合)** 報告内容 (70%), ディスカッションへの参加度 (30%) により総合的に評価する。

●**教科書・参考書** 教科書: Supply Chain Management, John T. Mentzer (ed.), Sage Publications, 2001 年 / 参考書: 製販統合, 石原武政・石井淳蔵 (編著), 日本経済新聞社, 1996 年

●**メッセージ** 前期開講の「流通システムの基礎研究」を受講済みであることが望ましい。

開設科目	外国文献研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮崎充保				

●**授業の概要** この授業は、2つの目的があります。社会科学的（主に経済）側面から外国語で書かれた文献を研究することとそこに使われている言語（英語）を的確に把握することです。その文献を通してさらに自分の興味の分野の視野を広げることです。そのためには、自分の視点からしっかり文献が読めなければなりません。訳読とは違います。翻訳は翻訳の専門家に任せておけばよいのです。自分の視点との同一と相違を読み取り、それを自己表現として表現するだけのことを扱います。専門書を読むには、専門知識が半分、その書が書かれた言語知識が半分／**検索キーワード** sociology, economics, globalization, risk, tradition, family, democracy

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Introduction
- 第 2 回 項目 Globalization 1 内容 Introduction-gist
- 第 3 回 項目 Globalization 2 内容 What's it all about?
- 第 4 回 項目 Discussion 1 内容 Overview of globalization
- 第 5 回 項目 Risk 1 内容 Introduction-gist
- 第 6 回 項目 Risk 2 内容 What's it all about?
- 第 7 回 項目 Tradition 1 内容 Introduction-gist
- 第 8 回 項目 Tradition 2 内容 What's it all about?
- 第 9 回 項目 Discussion 2 内容 Relevancies of globalization, risk, and tradition
- 第 10 回 項目 Family 1 内容 Introduction-gist
- 第 11 回 項目 Family 2 内容 What's it all about?
- 第 12 回 項目 Democracy 1 内容 Introduction-gist
- 第 13 回 項目 Democracy 2 内容 What's it all about?
- 第 14 回 項目 Discussion 3 内容 Where's the world heading?
- 第 15 回 項目 Conclusion 内容 Why RUNAWAY WORLD?

●**教科書・参考書** 教科書： The Third Way, Anthony Giddens, Polity, 1999 年

●**メッセージ** アウトラインをしっかり作ってください。そして、説得力のある自己主張/自己表現をしてください。

開設科目	外国文献研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	外国文献研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目		区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目		区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	Advanced Macroeconomics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	馬田哲次				

●**授業の概要** The purpose of this course is to introduce you to microeconomics which deals with behavior of individual decision makers and market mechanism. We will cover topics such as consumption and production choice, market outcomes under perfect competition, and

●**授業の一般目標** To understand the main concepts of microeconomics.

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Introduction
- 第 2 回 項目 The Market
- 第 3 回 項目 Consumer Behavior (1)
- 第 4 回 項目 Consumer Behavior (2)
- 第 5 回 項目 Individual and Market Demand (1)
- 第 6 回 項目 Individual and Market Demand (2)
- 第 7 回 項目 Production (1)
- 第 8 回 項目 Production (2)
- 第 9 回 項目 The Cost of Production (1)
- 第 10 回 項目 The Cost of Production (2)
- 第 11 回 項目 Profit Maximization and Competitive Supply (1)
- 第 12 回 項目 Profit Maximization and Competitive Supply (2)
- 第 13 回 項目 The Analysis of Competitive Markets
- 第 14 回 項目 General Equilibrium and Economic Efficiency (1)
- 第 15 回 項目 General Equilibrium and Economic Efficiency (2)

開設科目	Mathematics for Economics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	柏木芳美				

●**授業の概要** This course is to introduce students mathematics used in microeconomics. By using mathematics, things in economics will become clear and we can handle them theoretically. Actually microeconomics has been developed by mathematics. The goal of this course is to understand the mathematics which is used in solving the constrained utility maximizing problem and the constrained expenditure minimizing problem. The starting point depends on your knowledge of mathematics. We will begin by checking it. Topics include: basic mathematics, differentiation of functions of one variable, differentiation of functions of several variables, determinant, quasiconcave functions, Lagrangian method.

●**授業の一般目標** To understand Mathematics using in Microeconomics.

●**授業の到達目標／知識・理解の観点** : 1. Can use basic mathematics. 2. Can calculate derivatives of functions. 3. Understand the basic properties of determinants and can calculate concrete determinants. 4. Understand the meaning of utility maximization problems and expenditure minimization problems, and can solve them. **思考・判断の観点** : 1. Can study economic problems using mathematics. **関心・意欲の観点** : 1. Have interest concerning economic phenomena around us.

●**授業の計画（全体）** Preliminary test, review of fundamentals, basics of differentiation, elasticity, local maxima and local minima, constrained utility maximization problem, constrained expenditure minimization problem.

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Preliminary test
- 第 2 回 項目 The objective of this lecture
- 第 3 回 項目 Review of fundamentals 1
- 第 4 回 項目 Review of fundamentals 2
- 第 5 回 項目 Review of fundamentals 3
- 第 6 回 項目 Derivatives
- 第 7 回 項目 Increasing and decreasing
- 第 8 回 項目 Elasticity
- 第 9 回 項目 Local maxima and local minima
- 第 10 回 項目 Global maxima and global minima
- 第 11 回 項目 Partial derivatives 1
- 第 12 回 項目 Partial derivatives 2
- 第 13 回 項目 Simultaneous equations
- 第 14 回 項目 Constrained utility maximization problem
- 第 15 回 項目 Constrained expenditure minimization problem

●**成績評価方法（総合）** Checking assignments given.

●**教科書・参考書** 教科書 : Use prints

●**メッセージ** Have to solve assignments given in each lecture.

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, Tel:933-5595, Office:C213. If you have any question, visit my office at any time.

開設科目	Advanced Macroeconomics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	山田正雄				

●授業の概要 Introduction to macroeconomics

●授業の一般目標 This course is designed to understand the basic concept and framework of macroeconomics.

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 Gross Domestic Product

第 2 回 項目 Consumption

第 3 回 項目 Investment

第 4 回 項目 Determination of Income

第 5 回 項目 Multiplier Effect

第 6 回 項目 IS Curve

第 7 回 項目 Liquidity Preference

第 8 回 項目 Determination of Interest Rate

第 9 回 項目 LM Curve

第 10 回 項目 IS-LM Model

第 11 回 項目 Fiscal Policy

第 12 回 項目 Monetary Policy

第 13 回 項目 Mundell-Fleming Model

第 14 回

第 15 回

●教科書・参考書 教科書： Macroeconomics, N. G. Mankiw, Worth Publishers

開設科目	Public Economics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	仲間瑞樹				

- 授業の概要** The aim of this class is to understand fundamental and intermediate Public Economic Theory. In order to read many economic papers, especially Public Economics papers, you need enough knowledge of Public Economic Theory. Hence I explain Public Economic Theory in this class.
- 授業の一般目標** To understand Public Economic Theory. To build into an economic model using Public Economic Theory.
- 授業の到達目標／知識・理解の観点** : To understand intermediate Micro and Macro Economics using Math.
- 教科書・参考書** 参考書 : I will announce books of reference in my class.
- 連絡先・オフィスアワー** mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	Cost – Benefit Analysis	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Shinji Teraji				

●授業の概要 This course is an introduction to the main ideas of decision theory and game theory.

開設科目	Economic Statistics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	野村淳一				

●**授業の概要** Simulation models have been widely used in the design of public policy. For example, simulation models could answer questions like the following: (1) What is the impact of an increase in the federal budget deficit on the level of interest rates and the rate of inflation? (2) How does the trade deficit affect the level of employment and the bargaining position of labor unions? (3) What is the relationship between the quantity of money, say M1, and the level of economic activity? This course focuses upon econometric simulation models. Therefore we explain how to estimate a single equation model at first. For most economic decision or choice problems, we want to know the relationships between economic variables, which are suggested by economic theory. These are called economic models. These economic models involve questions concerning the signs and magnitudes of unknown and unobservable parameters, such as price elasticities and multipliers.

●**授業の一般目標** One of our goals is to give you some idea of how we introduce parameters into an economic model and how we estimate them. Then we discuss the construction, evaluation, and analysis of simultaneous equation models and their use in policy analysis and forecasting. At the end of this course we will construct our own simulation models and evaluate their dynamic behavior.

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点** : 基本的な統計学の理論を理解している。 **思考・判断の観点** : 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。統計学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。 **技能・表現の観点** : 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

●**授業の計画 (全体)** 1. Single Equation Models 2. Simultaneous Equations Models 3. Dynamic Behavior of Simulation Models

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Statistical model 内容 Statistical model
- 第 2 回 項目 Econometric estimates 内容 The Least Squares Principle
- 第 3 回 項目 Statistical inference (1) 内容 R2
- 第 4 回 項目 Statistical inference (2) 内容 F test
- 第 5 回 項目 Statistical inference (3) 内容 t tests
- 第 6 回 項目 Some notes for econometric estimates (1) 内容 seasonality, trends, dummy variables
- 第 7 回 項目 Some notes for econometric estimates (2) 内容 Heteroskedasticity
- 第 8 回 項目 Some notes for econometric estimates (3) 内容 Autocorrelation
- 第 9 回 項目 Simultaneous equations models (1) 内容 Simultaneous equations models
- 第 10 回 項目 Simultaneous equations models (2) 内容 IS-LM models
- 第 11 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (1) 内容 Dynamic behavior of simulation models
- 第 12 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (2) 内容 Stability
- 第 13 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (3) 内容 Multipliers and dynamic response (1)
- 第 14 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (4) 内容 Multipliers and dynamic response (2)
- 第 15 回 項目 予備 内容 予備

●**成績評価方法 (総合)** 課題レポートで判定する。評価割合は 100 %。

●**教科書・参考書** 教科書 : Basic Econometrics, 4th Edition, Gujarati, Damodar N., McGraw-Hill Higher Education Publishing, 2002 年

●**連絡先・オフィスアワー** nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 2 回、1 時間 30 分程度設ける (講義中に指示)

開設科目	Decision Making	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	成富敬				

●**授業の概要** Decisions today are probably more complex and difficult than at any time in the past. To improve our decision making abilities, we should consider both how these decisions are made and how they should be made. In this course we will focus on; 1. decision-making process 2. decision models 3. mathematical models 4. decision support systems

●**授業の一般目標** To improve our decision making abilities.

●**授業の計画（全体）** 1. decision-making process 2. decision models 3. mathematical models 4. decision support systems

●**成績評価方法（総合）** Exercises: 50 % Attendance: 50 %

開設科目	Program Evaluation	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	Joe SAKURADA				

- 授業の概要** This lecture is for the person who wants to learn financial accounting system. Especially in this lecture, I will concentrate on the legal point of view. Before we start learning Japanese accounting system for big companies, we need to study the accounting concept about Japanese Corporation Law & Corporation Tax Law. After we finished those, we can begin to learn the evaluation of accounting system. In Addison to that, it is important for us to understand managers' & shareholders' behaviors in stock market. Then we had better consider Agency theory. The theory contains managers' & shareholders' behaviors. Surely Agency theory is important concept in order to observe accounting system. But the theory is just one element of present-day accounting system and incomplete theory, too. So Let's consider lot of accusations about the Agency theory. /検索キーワード Japanese Corporation Law & Corporation Tax law, ANTI Agency theory
- 授業の到達目標** / 態度の観点 : Please be ready to express your countries conditions about financial & tax accounting. I want to know other countries conditions about accounting.
- 授業の計画 (全体)** In this country, Japan, financial accounting system has comparatively depended upon Corporation Law & Corporation Tax Law. So in order to understand Japanese financial accounting system, we have to approach to some important regulations. To our regret, some persons have a tendency to start learning accounting without any attentions to Corporation Law & Corporation Tax Law. In this lecture, I try to discuss both agency theory and some regulations with you as possible as I could.
- 成績評価方法 (総合)** All you have to do is just to continue taking part in this lecture. Sometimes I want you to introduce your countries conditions about financial & tax accounting.
- 教科書・参考書** 参考書 : After guys gathered, I will recommend some texts for you.
- メッセージ** To our regret, my abilities to speak & hear English are not so good. Sometimes it will be difficult for you to hear what I say, I think.
- 連絡先・オフィスアワー** If you get some troubles, come, enter my room (C209).

開設科目	Statistical Decision Making	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	HASHIMOTO, Hiroshi				

- 授業の概要** Decision making using statistical techniques and stochastic models will be treated. Problems of decision making under uncertainty are difficult to solve, but they are interesting and important in their real application. First mathematical preliminaries and basic results are given shortly. Then some useful methods in advanced statistics and operations research are introduced and discussed by using practical examples.
- 授業の一般目標** The objectives of this class are to increase understanding of the principles of statistical problem solving and to study the statistical methods and probability models required in the decision making process.
- 授業の計画（全体）** まず、必要な数学的準備をして、基礎的な概念やモデルを紹介し、主要な手法と例題を取り上げる。
- 教科書・参考書** 教科書： We will not use a textbook.
- 連絡先・オフィスアワー** 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	Specialization Course	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	Academic Writing	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Timothy Takemoto				

●**授業の概要** This course is to provide participants with experience of writing papers in English. As subject matter for the class we will consider and discuss defining characteristics and differences between European and Japanese culture. Participants will also be encouraged to present and write about their own research. / **検索キーワード** Style, Grammar, Corrections, Presentation, Precis, Japanese Culture

●**授業の一般目標** 1) To know the rules regarding the style of academic presentations. 2) To develop the ability to present academic manuscripts, and make presentations to generally accepted academic standards.

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**: 1) To know the rules regarding the style of academic presentations. **技能・表現の観点**: 2) To develop the ability to present academic manuscripts, and make presentations to generally accepted academic standards.

●**授業の計画 (全体)** 1) Lexical and Grammatical Register Students will be encouraged to become aware of the differences between formal (academic) and informal (conversational) vocabulary and grammar. Emphasis will be placed in raising students' awareness of the register of the lexicon and grammatical structures used in academic writing. 2) Academic Grammatical Constructions Students will be introduced and trained in the use of typical academic grammatical forms, in particular: the passive voice, compound sentences, and structures for making hypotheses, asserting conclusions and refuting arguments. 3) Abstracts and Pr & eacute;cis The methods and rules for producing pr & eacute;cis and abstracts of ones own and others work will be taught with emphasis placed on developing students' ability to condense, paraphrase and synopsis work in their own research field. 4) Structure and Organisation The structure and organisation of academic presentations, journal papers will be introduced with reference to cultural norms and international standards. Students will be required to present their own research in a format applicable for presentation and publication according to recognised academic structural norms. 4) Plagiarism, References and Citation Students will be advised as to the rules concerning the use, and abuse, of references to other academic works, including standards for citation, references and bibliographies. Students will also be guided in the use of search techniques and databases for the retrieval of pertinent bibliographic material. 5) Correction and Amendment Standards and techniques for the correction and amendment of academic texts will be introduced via reciprocal feedback and mock 'peer review'. Students will be required to present their own research and to provide constructive comment on the work of others. 6) Formal Presentation Students will be required to give a formal presentation to their peers and to a wider public via the World Wide Web. The use of information processing technology, such as Microsoft PowerPoint will be discussed.

●**成績評価方法 (総合)** Participants will be evaluated by reference to participation in class and frequent written submissions and a final presentation.

●**メッセージ** Please bear in mind that you will be required to submit your writing weekly via email.

●**連絡先・オフィスアワー** mail: tim@yamaguchi-u.ac.jp homepage: <http://www.nihonbunka.com>

開設科目	企業管理組織の理論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	長谷川光圀				

●**授業の概要** この講義は、修士課程の学生を対象にし、企業管理組織の理論的發展を詳細に分析するものである。

それは、経営学関係の修士論文を作成する上で、必ず知っておかなければならない重要研究論文を、多数取り上げている。／**検索キーワード** 戦略、管理組織、状況、硬直的管理組織、弾力的管理組織

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 企業管理組織の意義
- 第 2 回 項目 古典的組織論 (ウエバー)
- 第 3 回 項目 古典的組織論 (ファイヨル)
- 第 4 回 項目 その他の管理組織論
- 第 5 回 項目 バーナードの近代的管理組織論
- 第 6 回 項目 バーナードの近代的管理組織論
- 第 7 回 項目 サイモンの管理組織論
- 第 8 回 項目 マーチとサイモンの管理組織論
- 第 9 回 項目 コンテインゼンシー理論
- 第 10 回 項目 コンテインゼンジー理論
- 第 11 回 項目 個別事例研究：戦略と組織
- 第 12 回 項目 個別事例研究：戦略と組織
- 第 13 回 項目 情報革命と組織：企業内ネットワーク
- 第 14 回 項目 情報革命と組織：企業間ネットワーク
- 第 15 回 項目 その他

●**教科書・参考書** 教科書： 占部都美, 近代管理論の展開,

●**メッセージ** この講義は、出席を重視し、発言を評価し、新しい問題の提案を歓迎する。

開設科目	ベンチャービジネス論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有村貞則				

開設科目	ベンチャービジネス論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	有村貞則				

●**授業の概要** 現在、日本経済に求められているものは、新たな繁栄を創造する新産業や活力ある企業の登場です。このような日本経済の現状を踏まえながら、この授業では、新しい事業を考え、推進するために不可欠なビジネスプラン（事業計画）に焦点をあてながら、理論的・実証的な学習を進めます。聴講するだけでなく、自ら調べ、作成することを通じて、ビジネスプランを理解していきます。／**検索キーワード** ベンチャー、新規事業、新産業、アントレプレナー、企業家、起業家、起業、創業

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 授業の全体像を理解する。 内容 実習のグループ分けを行います。
- 第 2 回 項目 ビジネスプラン講義 (1)：事業イメージの考え方。
- 第 3 回 項目 ビジネスプラン講義 (2)：事業戦略の考え方。
- 第 4 回 項目 ビジネスプラン講義 (3)：事業目標と数値計画の考え方。
- 第 5 回 項目 ベンチャー企業事例研究 (1)：企業（予定：アスクール）のビジネスプラン
- 第 6 回 項目 ベンチャー企業事例研究 (2)：グループワーク
- 第 7 回 項目 ベンチャー企業事例研究 (3)：発表と討議
- 第 8 回 項目 ベンチャー企業事例研究 (4)：企業（予定：インクス）のビジネスプラン
- 第 9 回 項目 ベンチャー企業事例研究 (5)：グループワーク
- 第 10 回 項目 ベンチャー企業事例研究 (6)：発表と討議
- 第 11 回 項目 ビジネスプラン作成 (1)：進め方の説明と講義
- 第 12 回 項目 ビジネスプラン作成 (2)：グループワーク
- 第 13 回 項目 ビジネスプラン作成 (3)：グループワーク
- 第 14 回 項目 ビジネスプラン作成 (4)：発表と討議
- 第 15 回 項目 ビジネスプラン作成 (5)：発表と討議，まとめの講義。

●**教科書・参考書** 参考書： ビジネスプランの作り方，青山幸男，井上芳郎他，中経出版，2003 年

●**メッセージ** 創業しようという人だけでなく、社会に出てから充実した人生を歩むために大切な考え方、態度を学んだいただければ有り難い。

開設科目	会計政策論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	松浦良行				

- 授業の概要** 近年の会計基準の変更により、我が国の会計制度も国際会計基準にますます接近してきました。国際会計基準への接近は、情報利用者にとってどのような意義があるのかについては、海外（とりわけヨーロッパ）で多くの実証研究が行われています。本講義では、これらの研究蓄積を読んでいきます。／**検索キーワード** 国際会計基準、時価評価、回帰分析
- 授業の一般目標** 国際的な会計基準統一の実態的な意義を理解します。また、代表的な実証分析のスタイルを理解します。
- 授業の計画（全体）** おおよそ2週間に一本の割合で代表的な研究を読破し、また可能であればそれに関連した我が国企業に関する分析を行っていきます。
- 成績評価方法（総合）** 講義に出席し、議論・分析にきちんと参加されているかで評価します。テスト等はいりません。
- 教科書・参考書** 教科書：受講生と相談の上、追って指示します。
- メッセージ** 検討していく論文は、日本語と英語のものが半々くらいになる予定ですが、皆さんの興味や理解度に応じて進捗とあわせ柔軟に調整していくつもりです。ただし、それなりに英語文献を読める能力が必要です。
- 連絡先・オフィスアワー** matu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	資本市場の財務情報の役割研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	松浦良行				

- 授業の概要** 近年、ブランドなど無形固定資産の株価説明力が注目されてきています。この講義では、下の教科書欄に示す本を中心として、無形固定資産と株価の関係を理解していきます。／**検索キーワード** 財務報告、ブランド価値、R & D、資本市場
- 授業の一般目標** 受講生の皆さんが、ブランド等の経済的価値計算の基本フォーマットを把握し、その管理方法を含めブランド価値創出活動の概要自体にも関心を持てるようになれば、と思っています。
- 授業の計画（全体）** 講義の前半では技術評価の方法の基本フォーマットを把握し、後半で広く無形資産の問題に拡張していきます。前半は日本語、後半は英語の文献です。
- 成績評価方法（総合）** 講義に出席し、議論・分析にきちんと参加されているかで評価します。テスト等はありません。
- 教科書・参考書** 教科書：技術経営と価値評価, ボイヤー, 日本経済新聞社, 2004 年；Intangibles, Lev,B, Brookings, 2001 年；文献はこちらで用意します。
- 連絡先・オフィスアワー** matu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	情報の蓄積と検索研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	橋本寛				

- 授業の概要** 情報管理の中で中心的位置をしめる情報検索 (Information Retrieval)、すなわち情報の蓄積と検索について、数学的モデルを構築し基礎的考察を行う。
- 授業の一般目標** 情報検索の数学的モデルを構築し、その性質を明らかにする。
- 授業の計画 (全体)** まず、必要な数学的準備をして、検索モデルを構築し、そのモデルの性質などについて議論する。
- 成績評価方法 (総合)** 出席およびレポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書： 使用しない。
- メッセージ** 集合や論理について基礎的な知識があれば都合がよい。
- 連絡先・オフィスアワー** 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	データベース研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	橋本寛				

- 授業の概要** データベースの数学的基礎理論について考察を行う。特に関係データベースのモデルに関する様々な演算やその基本的性質を調べる。
- 授業の一般目標** データベースに関する基礎的概念および関係モデルの演算および性質について理解する。
- 授業の計画（全体）** データベースの概要および関係データベースの議論に必要な集合に関する様々な演算とその性質を紹介した後、関係データベースの数学的モデルについて検討する。
- 成績評価方法（総合）** 出席およびレポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書： 使用しない。
- メッセージ** 集合や論理について基礎的な知識があれば都合がよい。
- 連絡先・オフィスアワー** 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	金融システムとファイナンス研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	兵藤隆				

●**授業の概要** この講義では、金融工学（ファイナンス）理論や情報の経済学など、よりアドバンスド（発展的）な金融理論を理論的・実証的に検証していくことを目的とする。／**検索キーワード** 金融工学 ファイナンス 投資決定理論

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 1
- 第 3 回 項目 ファイナンス理論の流れと概要 2
- 第 4 回 項目 統計学の基礎 1
- 第 5 回 項目 統計学の基礎 1
- 第 6 回 項目 平均・分散アプローチ 1
- 第 7 回 項目 平均・分散アプローチ 2
- 第 8 回 項目 CAPM 理論 1
- 第 9 回 項目 CAPM 理論 2
- 第 10 回 項目 APT（価格裁定理論）
- 第 11 回 項目 行動ファイナンス理論
- 第 12 回 項目 デリバティブの概要
- 第 13 回 項目 オプション価格決定理論 1
- 第 14 回 項目 オプション価格決定理論 2
- 第 15 回 項目 予備

●**メッセージ** 統計学や基礎的な数学ツールは各自で補ってください。

開設科目	金融経済と貨幣理論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	兵藤隆				

●**授業の概要** この講義では、基礎的な金融経済理論および貨幣理論の考察を通じて、今後のわが国の金融システムがどのように変化すべきなのかを理論的・実証的に検証していくことを目的とする。／**検索キーワード** 金融理論、貨幣理論、マネー、Money、金融機関、金融制度、金融システム

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 金融の歴史：明治期から戦後復興期まで
- 第 3 回 項目 高度成長期の金融システム
- 第 4 回 項目 金融自由化
- 第 5 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (1)
- 第 6 回 項目 メインバンク制と株の持ち合い (2)
- 第 7 回 項目 公的金融と財政投融资制度
- 第 8 回 項目 公的金融と郵便貯金
- 第 9 回 項目 金融の現状
- 第 10 回 項目 貨幣の役割：貨幣理論の基礎
- 第 11 回 項目 貨幣需要
- 第 12 回 項目 利子率の期間構造
- 第 13 回 項目 金融仲介機関と情報の非対称性
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備

開設科目	グローバル企業研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	藤原貞雄				

●授業の概要 今年度は開講しない。

開設科目	グローバル企業と世界経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	藤原貞雄				

●授業の概要 今年度は開講しない。

開設科目	企業法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	一ノ澤直人				

●**授業の概要** 本年度は、企業法の中でも改正が進む会社法について研究する。会社法の諸制度を機能的に理解し、日々変化している企業のあり方や会社を取り巻く社会状況を踏まえ、適正な会社法制度のあり方を探究したい。／**検索キーワード** 会社法、企業法、コーポレートガバナンス

●**教科書・参考書** 教科書: The Reform of United Kingdom Company Law, John de Lacy (ed), Cavendish Publishing Limited, 2002 年 ; 判例六法 平成 1 5 年度版, 青山義充他編, 有斐閣, 2002 年

●**メッセージ** 受講者は、会社法関連のテーマ・判例を中心に、自己の関心・問題意識から、とくに本講義で検討したい点を、幾つか考えておくこと。

開設科目	企業法研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	高齢化社会の経済学的研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	植村高久				

●**授業の概要** 日本における高齢化の進展から生じる経済的問題を総合的多面的に考察する。

開設科目	経済心理学研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	馬田哲次				

●**授業の概要** 人間を意識面からとらえなおし、それをもとに、豊かさ、富について考える。そして、豊かさを実現するうえにおいて、今日の経済社会システムが影響を与えているプラス面とマイナス面について考察し、さらに、経済社会システムをどのように再構築すれば豊かさを実現しやすいかについて考える。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 経済心理学とは
- 第 2 回 項目 新古典派経済学批判
- 第 3 回 項目 経済学とは何か
- 第 4 回 項目 新しい人間観（1）
- 第 5 回 項目 新しい人間観（2）
- 第 6 回 項目 豊かさと富
- 第 7 回 項目 自然・経済・人間
- 第 8 回 項目 資本主義経済の特徴
- 第 9 回 項目 労働
- 第 10 回 項目 組織
- 第 11 回 項目 市場・貨幣
- 第 12 回 項目 消費
- 第 13 回 項目 環境問題
- 第 14 回 項目 新しい経済・社会システム
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	日本経済史研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	
担当教官	木部和昭				

- 授業の概要** テーマ：産業革命期の日本経済 本講義では、明治 20(1887) 年頃から日露戦争後 (1910 年頃) にかけて展開したとされる 産業革命期の日本経済について取り上げる。日本の産業革命は、日本経済近代化の端緒 であると同時に、様々な面で日本という国を大きく変容させていった。では、日本の産業革命は、欧米諸国のそれと比べてどの様な特徴を持ち、具体的にいかなる過程をたどって展開していったのか、あるいは産業革命を達成できた要因は何であったのか、といった点について考察を加えていきたい。そうした上で、産業革命が地域社会に及ぼした 影響についても、具体的事例を取り上げながら詳細に検討してみたい。／**検索キーワード** 日本経済史、日本近代史、産業革命
- 授業の一般目標** ・産業革命が日本の地域社会をどの様に変えたのかを理解する。 ・経済史の分野で地域社会を分析する視角を養う。 ・修士論文に向けた知識や手法の習得を目指す。
- 授業の計画（全体）** 当面は下記のテキスト、石井寛治『日本の産業革命』を中心に進めるが、受講生の興味関心に応じて、適宜、別の図書・論文の講読も行う。受講者には順次報告を課し、それについての討論および補足を行いながら進めていく。また、関係する基本的文献・資 史料を把握し、また、それらを用いた資史料講読も行う。
- 成績評価方法（総合）** 課題の報告およびレポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書： 『日本の産業革命』, 石井寛治, 朝日新聞社, 1997 年／ 参考書： この他の参考書は適宜紹介する。
- メッセージ** ・講義内容は、受講者の専攻及び興味関心によって、変更になる場合がある。 ・日本経済史研究 B（前期開講）との通年履修が望ましい。
- 連絡先・オフィスアワー** 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西欧文化の研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	鴨川 啓信				

- 授業の概要** 現代の思想家 Susan Sontag の著作 ”Illness as Metaphor” (1978) を読んでいく。「病気」とそれが持つ社会的・文化的意味に関する Sontag の鋭い分析を読み、西洋の考え方と日本人の考え方の類似点・相違点を考察する。
- 授業の一般目標** 比較的複雑な思想が示される論述文を読みこなす英語力の向上を目指す。また、思想の内容を理解することで、より広い教養を身に付ける。
- 授業の計画（全体）** 教材を半期の間に最後まで読み通す。
- 成績評価方法（総合）** 授業時の発表 (2)、期末レポート (8) に基づき成績評価を下す。尚、() 内の数字はおおよその割合を示している。
- 教科書・参考書** 教科書：教材は授業時にプリントで配布する。／参考書：『隠喩としての病い・エイズとその隠喩』、スーザン・ソントグ、みすず書房、1992 年
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西欧文化の講読研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	鴨川 啓信				

- 授業の概要** 現代の思想家 Susan Sontag の著作 ”AIDS and Its Metaphor” (1989) を読んでいく。 AIDS という「病気」とそれが持つ社会的・文化的意味に関する Sontag の鋭い分析を読み、西洋の考え方と日本人の考え方の類似点・相違点を考察する。
- 授業の一般目標** 比較的複雑な思想が示される論述文を読みこなす英語力の向上を目指す。また、思想の内容を理解することで、より広い教養を身に付ける。
- 授業の計画（全体）** 教材を半期の間に最後まで読み通す。
- 成績評価方法（総合）** 授業時の発表 (2)、期末レポート (8) に基づき成績評価を下す。尚、() 内の数字はおおよその割合を示している。
- 教科書・参考書** 教科書：教材は授業時にプリントで配布する。／参考書：『隠喩としての病い・エイズとその隠喩』、スーザン・ソントグ、みすず書房、1992 年
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	環境変化と管理会計の課題研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	坂手恭介				

●教科書・参考書 教科書： ケースブック コストマネジメント, 加登豊・李建, 新世社, 2001 年

開設科目	戦略的コスト・マネジメントと管理会計研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	坂手恭介				

開設科目	企業環境の変化と原価計算研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	中田範夫				

- 授業の概要** 企業の環境変化とともに伝統的原価計算技法は不適切になりつつあると言われている。新しい環境に対しては伝統的原価計算方法に代わって活動基準原価計算という方法が有効であると主張されている。活動基準原価計算について学習する。
- 授業の一般目標** 活動基準原価計算に関する基本的文献を読むことによってこの原価計算についての理解を深める。
- 授業の計画（全体）** テキストを学生と一緒に読んでいく形で授業を進めたい。
- 成績評価方法（総合）** 授業での態度や授業への参加度を評価の基準とする。
- 教科書・参考書** 教科書：後日相談して決めたい。
- 連絡先・オフィスアワー** 電話：933-5556（研究室）

開設科目	非物的経済財の資産化と原価計算 研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	直接原価計算論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	情報伝達と財務会計研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	山下訓				

●**授業の概要** 本来、会計は情報伝達機能を内在するものであるが、今日では伝達機能が重視されている。本講義では、情報伝達の観点から、利害調整等会計の基本機能について学んでいく。

●**教科書・参考書** 教科書：参加者と相談する。

●**連絡先・オフィスアワー** yamasita@po.cc.yamaguchi-u.c.jp 内線 5 5 1 8

開設科目	意思決定と財務会計研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	山下訓				

●**授業の概要** 会計の機能を企業資本の統一的・全体的管理に求め、この観点から企業経営の判断にとって必要な会計上の視点・手法に関して総合的に学んでいく。

●**教科書・参考書** 教科書：参加者と相談する。

●**連絡先・オフィスアワー** yamasita@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 内線 5 5 1 8

開設科目	財務諸表分析の基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	櫻田 譲				

●**授業の概要** 企業経営者の行動は、企業の所有者たる株主に監視されることによって、企業経営上のモラルハザードを、経営者自らが抑制してゆくという、研究上、ややもすると楽観的とも言える分析視角が存在する。エージェンシー理論に基づくこのような分析視角はすべてが間違いだとは言えず、エージェンシー理論がもたらした研究上の成果には一定の評価はされるべきである。しかし、エージェンシー理論の熱心な信奉者となった会計学者の多くが度外視してしまう問題がある。それは法人税法による経営者行動への規制をいかに考慮に含めるか、という問題である。例えば企業経営者が償却資産の減価償却方法をあたかも自由に選択できるかのような前提があり、そのような利益調整とも言える行動が株主によって監視されるために、経営者は自らに制限を課すと語られる。しかしこの場合、わが国においては特に、経営者に償却方法の自由な選択を思いとどまらせてしまうのは株主による監視ばかりではなく、法人税法における償却方法変更に関する細則であろう。このように観てくると、財務諸表分析を行う以前に、法人税法会計が企業会計に与える少なくない影響について観ておく必要がある。そこで本講義では、法人税法における会計処理について、その基礎的な部分を学習する。／**検索キーワード** 法人税法 所得 税理士 会計

●**授業の一般目標** 法人税法会計に関して今まで全く学習した経験のない方には、初級レベルから学習をスタートさせます。最終的な目標は税務会計検定試験法人税法1級の合格水準への到達です。但し実際に検定試験を受験する必要はありません。場合によっては所得税法会計についても学習内容とすることがあり、法人・個人所得の算定プロセスについて総合的にその概略を理解することができます。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：企業会計と法人税法会計の会計処理における考え方の違いを理解することができる。**思考・判断の観点**：只ひたすら問題を解くとなると退屈になるので、問題の答えが、なぜ模範解答のようになるのか、考えてみましょう。**関心・意欲の観点**：毎回比較的易しい問題を解くために、理解不足となる部分を把握することができる。知識の定着に努めてください。**態度の観点**：講義でサングラスをかける、ガムを噛んでいる、ケータイで遊ぶ等、受講態度が悪い学生さんは受講の中止を勧告します。**技能・表現の観点**：受講者にプレゼンをしてもらう事があり、このため宿題が課されることがあります。

●**授業の計画（全体）** 参加人数により進捗度は変わるので一概に言えませんが、講義の後半には法人税法会計と所得税法会計の基礎的な学習を終え、税務会計検定試験・法人税法1級の合格水準の勉強をしている予定です。

●**成績評価方法（総合）** まず大学院講義ではあり得ないと思いますが、サングラスをかけて受講したり、講義中、みだりに立ち上がり退席してゆくという行儀の悪い学生さんは受講の停止を勧告します。少人数による学習になるとしますので、講義へ臨む姿勢を重視します。お互いに気持ちよく勉強できればいいと思います。

●**教科書・参考書** 教科書：受講者の顔ぶれをみて決めます。いずれにせよ法人税法会計・所得税法会計に関する検定用テキストとワークブックを使用します。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室に在室中はいつでもどうぞ。

開設科目	財務諸表分析の応用研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	櫻田 譲				

- 授業の概要** 経営分析に関する知識を基礎として、受講者の作成する修士論文に提言を行う。具体的な講義の進め方は「財務諸表分析の基礎研究」を踏襲するものであり、受講者は「財務諸表分析の基礎研究」を履修済みであることが望ましい。／**検索キーワード** 法人税法 所得 税理士 会計
- 授業の一般目標** 担当教官の研究の紹介と、そこから受講者の研究へ個別に有意義なアドバイスを与えることを目標とする。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 法人税法会計・経営分析に関する知識の習得が要求される。 **思考・判断の観点**： 受講者の修士論文作成に関して、その概略を説明することが要求される。 **関心・意欲の観点**： 受講者の研究上の問題意識について、その概略を説明することが要求される。
- 授業の計画（全体）** 受講者の研究の進捗状況による。
- 成績評価方法（総合）** レポートの提出とプレゼンが課される場合がある。
- 教科書・参考書** 教科書： 受講者の顔ぶれをみて決めます。いずれにせよ法人税法会計・所得税法会計に関する検定用テキストとワークブックを使用します。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室に在室中はいつでもどうぞ。

開設科目	経営数理システム研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	南正義				

●**授業の概要** 最適制御問題の数学理論について講義する。／**検索キーワード** 最適制御、最適制御問題、最大原理

●**授業の一般目標** 1. 最適制御理論のための数学について理解する。 2. 例を中心に最適制御問題を理解する。 3. 最適制御問題の最大原理について理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：最適制御のための数学と最大原理について理解する。 **思考・判断の観点**：数学的思考能力を身につける。 **関心・意欲の観点**：最適制御数学への関心を身につける。
態度の観点：数学に親しむ態度を養う。 **技能・表現の観点**：計算能力と数学的表現力を身につける。

●**授業の計画（全体）** 最適制御理論の数学、最適制御問題の例と最大原理について学習する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 1 変数関数の連続・区分的連続 授業外指示 参考書 p 3 0 - 3 2 授業記録 ノート
- 第 2 回 項目 1 変数関数の微分 授業外指示 参考書 p 3 2 - 3 3 授業記録 ノート
- 第 3 回 項目 不定積分・定積分 授業外指示 参考書 p 3 4 授業記録 ノート
- 第 4 回 項目 ベクトルの内積・ノルムと行列の積 授業外指示 参考書 p 2 3 - 2 5、p 5 2 - 5 3、p 4 5 - 4 6 授業記録 ノート
- 第 5 回 項目 多変数関数の偏微分 授業外指示 参考書 p 3 6 授業記録 ノート
- 第 6 回 項目 多変数関数の連続 授業外指示 参考書 p 3 4 - 3 6 授業記録 ノート
- 第 7 回 項目 常微分方程式・連立常微分方程式 授業外指示 参考書 p 1 6 - 1 8 授業記録 ノート
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 最適制御問題の定式化 授業外指示 参考書 p 1 1 1 - 1 1 4 授業記録 ノート
- 第 10 回 項目 最大原理 授業外指示 参考書 p 1 2 0 - 1 2 1、p 1 2 9 授業記録 ノート
- 第 11 回 項目 最短時間制御問題の例（その 1） 授業外指示 参考書 p 5 - 6、p 1 0 - 1 3 授業記録 ノート
- 第 12 回 項目 最短時間制御問題の例（その 2） 授業外指示 参考書 p 1 3 - 1 6 授業記録 ノート
- 第 13 回 項目 最短時間制御問題の例（その 3） 授業外指示 参考書 p 6、p 1 6 - 2 2 授業記録 ノート
- 第 14 回 項目 最短時間制御問題の例（その 4） 授業外指示 参考書 p 1 6 - 2 2 授業記録 ノート
- 第 15 回 項目 期末試験

●**成績評価方法（総合）** 中間試験と期末試験の 2 回の定期試験で主に評価し、それぞれ 2 0 %、4 0 % 合計 6 0 % で評価し、出席点の評価を 3 0 %、授業態度・授業への参加度の評価を 1 0 % 合計 1 0 0 % で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：最適制御数学入門、押川元重・南正義、培風館、1999 年

●**メッセージ** 「線形代数」と「微分法」・「積分法」の知識が望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** 金曜日昼休み：経済学部 A 棟 3 階 3 0 2 研究室

開設科目	経営数理計画研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	南正義				

●**授業の概要** 極値問題と最大最小問題を中心に数理計画法の数学理論を講義する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 数理計画問題の例
- 第 2 回 項目 行列と行列式
- 第 3 回 項目 部分ベクトル空間の次元と行列の階数
- 第 4 回 項目 ベクトルの内積・ノルム・直交補空間
- 第 5 回 項目 近傍・開集合・閉集合
- 第 6 回 項目 連続関数の最大値・最小値
- 第 7 回 項目 1 変数関数の微分
- 第 8 回 項目 多変数関数の偏微分
- 第 9 回 項目 陰関数の存在定理
- 第 10 回 項目 等式条件のもとでの極値条件
- 第 11 回 項目 等式条件のもとでの最大・最小問題の例
- 第 12 回 項目 中間試験
- 第 13 回 項目 不等式条件のもとでの極値条件
- 第 14 回 項目 不等式条件のもとでの最小値問題の例
- 第 15 回 項目 期末試験

開設科目	情報処理システム研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	3 単位	開設期	後期
担当教官	成富敬				

- 授業の概要** 本講義では、人間の様々な活動を支援する中核システムとしての情報処理システムに焦点を当て、その役割や問題点について討論する。
- 授業の一般目標** 情報処理システムに関する知識を習得するとともに、その役割や問題点について考える。
- 成績評価方法 (総合)** 平素の授業に対する姿勢、レポート等を総合的に判断して評価する。概ね、授業への参加度 (60%)、出席 (40%)。
- メッセージ** 受講者と相談して、授業内容を変更することもあります。

開設科目	国際メディア研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	マルク・レール				

- 授業の概要** 国際比較に基づいて新聞の歴史的発展、新聞市場の現状や将来性について理論的に分析。／**検索キーワード** マス・メディア、新聞
- 授業の一般目標** 媒体論的アプローチによって新聞の特質を分析する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：新聞の歴史的発展とメディア的構造を理解する。 **思考・判断の観点**：新聞の媒体としての役割について判断ができる。 **関心・意欲の観点**：新聞に包括的に関心を持つ。 **態度の観点**：自分の研究分野に新聞を活かす。 **技能・表現の観点**：専門的なレベルで新聞に関して議論ができる。
- 授業の計画（全体）** 1. 欧米と日本の新聞の歴史的発展。 2. 欧米と日本の新聞市場の現状。 3. 新聞紙面とジャーナリズム。 4. ニュースとニュースデザイン。 5. 新聞の将来。
- 成績評価方法（総合）** 授業の参加度（40％）＋レポート（60％）
- メッセージ** 毎回の授業の具体的な内容は、受講者の関心と専門知識レベルを参考にして調整する。
- 連絡先・オフィスアワー** loehr@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	東アジア経済と日本研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	発展途上地域の経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	現代日本の労使関係研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	濱島清史				

●**授業の概要** 現代日本の労使関係について、主に労組、経営者団体、政策の戦後の動向を辿っていき、各自の歴史認識を深めることをねらいとする。労使関係には上記以外に日本の労使関係の考察や労務管理なども考えられるが、本講義では政労使三者関係史を中心に概観していくことにする。なお、受講生の希望によっては、日本的雇用慣行、キャリア形成の議論にしてもよい。／**検索キーワード** 労使関係、労働組合、経営者団体、政労使、日本的雇用慣行

●**授業の一般目標** 現代日本の労使関係の基本事項について認識すること。

●**授業の計画（全体）** ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト(1)か(2)のいずれかを輪読し、毎回参加者にレジュメを作成して報告してもらう。なお、下記の参考書(2)はテキストとの立場上のバランスをとるために挙げている。それが終わったら、テキスト(3)の1990年以降の「第1概説」部分を毎回輪読していく。発表者にはできれば白書全頁とさらに参考文献を併せて読んできて報告することを期待する。その他の参加者も少なくとも十数年分の「第1概説」を通読して知識を養ってもらう。経済白書や世銀の年報の数年分の輪読は、他の大学院のゼミでも取り入れられており、とても有意義な方法と認識している。

●**成績評価方法（総合）** レジュメ発表と学期末レポート。レポートが50%、発表等が40%、出席が10%。

●**教科書・参考書** 教科書：・テキスト候補(1)神代和欣・連合総合生活開発研究所編(1995)『戦後50年産業・雇用・労働史』日本労働研究機構。(2)兵藤ツトム(1997)『労働の戦後史』東京大学出版会。(3)(厚生)労働省『労働運動白書』大蔵省印刷局、各年版。・参考書は適宜指摘するが、さしあたり(4)法政大学大原社会問題研究所編(1999)『日本の労働組合100年』旬報社。(5)労働問題実践シリーズ編集委員会編5『労働組合を創る』大月書店。教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。／参考書：適宜指示する。

●**メッセージ** 共に学ばん！

●**連絡先・オフィスアワー** tel : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス : hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	労使関係の国際比較研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	濱島清史				

●**授業の概要** 比較研究をすることによって対象への認識は深まるものであり、何らかの比較のないところでは対象の位置づけ自体が定まらなくなってしまう。本講義では労使関係の国際比較を行なうことによって、各自の専門(関心)領域に幅をもたせてもらうことをねらいとする。先進国—日本—途上国の三段階の労使関係論を体系的に構築していく魁とならんことを期待したい。／**検索キーワード** 労使関係、労働組合、経営者団体、政労使、日本的雇用慣行

●**授業の一般目標** 世界の主要国の労使関係の基本事項について認識すること。

●**授業の計画(全体)** ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト(1)(2)から何部か選択して輪読していき、毎回参加者にレジュメを作成して報告してもらう。ゼミの後半は、各自が関心を持つ国に関して調べてきて発表してもらいたい。

●**成績評価方法(総合)** レジュメ発表と学期末レポート。レポートが50%、発表等が40%、出席が10%。

●**教科書・参考書** 教科書：・テキスト候補(1) 桑原靖夫、グレッグ・バンバー、ラッセル・ランズベリー編(1994)『先進諸国の労使関係—国際比較：21世紀に向けての課題と展望—』日本労働研究機構。(2) 「特集●開発主義と労使関係」日本労働研究雑誌1999年8月号、No.469。・参考書は適宜指摘するが、さしあたり(3) 稲上毅・H. ウィッターカ他(1994)『ネオ・コーポラティズムの国際比較—新しい政治経済モデルの探索—』日本労働研究機構。(4) 日本労働協会編『海外調査シリーズ、〇〇国の労働事情』日本労働協会(現日本労働研究機構)。教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。／参考書：適宜指示する。

●**メッセージ** 共に学ばん!

●**連絡先・オフィスアワー** tel: 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス: hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代マーケティングの基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	米谷雅之				

- 授業の概要** 現代企業とマーケティング、マーケティングと競争、市場と企業組織、市場環境の変化とマーケティング戦略、流通システムのダイナミクスなど、現代マーケティングに関する諸問題について考察する。
- 授業の一般目標** 企業経営を専攻する院生がもつべきマーケティングの基礎的理解の修得を目指す。
- 授業の計画（全体）** 適切なテキストを選んで、輪読形式で進めていく。報告者による報告を基礎にして、皆で議論し検討する。受講者は毎回レポートの提出が求められる。
- 成績評価方法（総合）** 期末テストやレポートの成績、授業での報告や出席状況などを総合的に判断して評価する。昨年と同様に、毎回のレポート提出以外に、期末に期末レポートの提出と筆記試験を実施し、成績評価を行う。
- 教科書・参考書** 教科書：適切な教科書を選んで、それを利用しながら進めていく予定である。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail kometani@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5537, 研究室 A322

開設科目	戦略的マーケティングの展開研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	米谷雅之				

- 授業の概要** マーケティング戦略の形成、戦略的マーケティングの展開など、現代企業が直面するマーケティング問題を、特に製品戦略の形成と展開に焦点を当てながら考察する。
- 授業の一般目標** 企業経営を専攻する院生がもつべきマーケティング戦略についての基礎及び応用的理解の修得を目指す。
- 授業の計画（全体）** 適切なテキストを選んで、輪読形式で進めていく。報告者による報告を基礎にして、皆で検討し議論する。参考文献についても重要なものは、読んで報告してもらう。
- 成績評価方法（総合）** 期末テストやレポートの成績、授業での報告や出席状況などを総合的に判断して評価する。
- 教科書・参考書** 参考書：米谷雅之著『現代製品戦略論』（千倉書房,2001年）
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail kometani@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5537, 研究室 A322

開設科目	流通システムの基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	藤田健				

●**授業の概要** 流通は生産と消費のへだたりを埋める役割を果たす。流通機関は流通機能を分担して遂行し、流通機能の分担関係は時代とともに変化していく。本講義は、このような流通システムを分析するための基礎理論を学ぶ。／**検索キーワード** 流通, 商業, マーケティング

●**授業の一般目標** 1. 流通理論を体系的に修得する。 2. 流通現象の動態を理解する。

●**授業の計画（全体）** 教科書の輪読をおこない、受講者とのディスカッションを通じて流通論を理解する。
 1. イントロダクション 2. 流通論で何を学ぶのか 3. 経済社会の中での流通と商業 4. 商業の市場形成機能
 5. 商業における品揃え形成過程 6. 商業の社会性と売買の集中 7. マーケティングの登場と商業 8. 閉鎖的
 体系の構築とその限界 9. 大量生産に対応した流通組織の発展 10. 流通組織におけるコンフリクトとその
 調整 11. 流通組織の「適応」過程 12. 流通組織の新展開 13. 投機的流通から延期的流通への転換 14. ま
 とめ：21 世紀の流通システム

●**成績評価方法（総合）** 報告内容 (40%), ディスカッション (30%), レポート (30%) で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：ビジネスエッセンシャルズ (5) 流通, 大阪市立大学商学部編, 有斐閣, 2002 年

開設科目	半導体産業史研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	谷光太郎				

●**授業の概要** 現代の情報化社会を駆動している半導体産業の歴史を考究する。

開設科目	現代企業経営と研究開発研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	谷光太郎				

●授業の概要 現代企業における研究開発の重要性とその実態の考究

開設科目	人的資源管理の現代的課題研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	庄村長				

- 授業の概要** 人的資源管理は人事労務管理とほぼ同義であるが、現代的な新しさもある。講義では、この人的資源管理の基本を正確に理解することに努めながら、日本における人的資源管理の現代的課題について研究を進めたい。
- 授業の一般目標** 基本文献の検討を通して現代の人的資源管理の考え方を正確に理解すること、及び、日本の雇用制度の考察を通して日本における人的資源管理の現代的課題について理解を深めること、を基本目標としたい。
- 授業の計画（全体）** 次の（１）（２）（３）の作業を予定している。（１）人的資源管理の考え方についての基本文献の検討（２）日本の雇用制度についての考察（３）日本における人的資源管理の現代的課題に関する研究成果報告（全体のまとめとして）なお、「テキスト・参考書」「成績評価」等を含め、講義の具体的な進め方については、第１回目の講義時に、参加者の問題関心・受講意識なども確認しながら、説明したいと考えている。
- 成績評価方法（総合）** 講読文献の報告討議５０％、まとめの研究成果５０％、出席 欠格条件
- 連絡先・オフィスアワー** 電話（研究室）９３３－５５８２、研究室Ｃ－２２３、オフィスアワーは第１回目の講義時に示します。

開設科目	人的資源管理の変化と展望研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	庄村長				

- 授業の概要** 人的資源管理は人事労務管理とほぼ同義であるが、現代的な新しさもある。講義では、欧米とくにアメリカにおける近年の人事労務管理・人的資源管理の展開についてもその基本的理解に努めながら、中心的には日本における近年の人的資源管理の変化と展望について研究を進めたい。
- 授業の一般目標** 基本文献等の検討を通して日本における近年の人的資源管理の変化や動向について理解を深めること、を基本目標としたい。
- 授業の計画（全体）** 次の（１）（２）（３）の作業を予定している。（１）日本における近年の人的資源管理の変化と展望についての基本文献やケースの検討（２）欧米とくにアメリカの人的資源管理の展開についての考察（３）人的資源管理の変化と展望に関する研究成果報告（全体のまとめとして）なお、「テキスト・参考書」「成績評価」等を含め、講義の具体的な進め方については、第１回目の講義時に、参加者の問題関心・受講意識なども確認しながら、説明したいと考えている。
- 成績評価方法（総合）** 講読文献の報告討議 50%、まとめの研究成果 50%、出席 欠格条件
- 連絡先・オフィスアワー** 電話（研究室）933-5582、研究室C-223、オフィスアワーは第１回目の講義時に示します。

開設科目	現代企業のファイナンス戦略の特質研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	城下賢吾				

●**授業の概要** ファイナンスの基礎と応用の取得

●**教科書・参考書** 教科書：現代ファイナンス論, ボディ・マートン, ピアソン, 2002 年

開設科目	現代企業のファイナンス戦略と企業評価研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	城下賢吾				

●**授業の概要** 伝統的ファイナンス論への心理学の適用について研究します。

開設科目	投資決定論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	城下賢吾				

- 授業の概要** この講義は学部の講義，投資決定論 2 を受講してください。ただし，レポート試験については別個取り扱います。

開設科目	投資決定論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	城下賢吾				

- 授業の概要** この講義の受講者は学部の講義投資決定論 3 を受講してください。ただしレポートおよび試験は別途取り扱います。

開設科目	投資決定論研究C	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	城下賢吾				

- 授業の概要** この講義の受講者は学部の講義、投資決定論 4 を受講してください。ただし、レポートおよび試験については別途行います。

開設科目	国際人事管理の基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	有村貞則				

●**授業の概要** 国際経営論の基礎研究（科目名変更）：この授業では、多国籍企業に関する基礎的理論を習得します。

●**授業の一般目標** 多国籍企業や国際経営の基礎理論習得

●**授業の計画（全体）** 1. 多国籍化の理論 2. 国際経営の理論

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 バーノンのプロダクトサイクル理論 (1)
- 第 2 回 項目 バーノンのプロダクトサイクル理論 (2)
- 第 3 回 項目 ハイマーの対外事業活動論 (1)
- 第 4 回 項目 ハイマーの対外事業活動論 (2)
- 第 5 回 項目 フェアーフェザーの国際経営論 (1)
- 第 6 回 項目 フェアーフェザーの国際経営論 (1)
- 第 7 回 項目 ダニングの折衷理論 (1)
- 第 8 回 項目 ダニングの折衷理論 (2)
- 第 9 回 項目 多国籍企業の組織論 (1)：ストップフォード&ウェルズ
- 第 10 回 項目 多国籍企業の組織論 (2)：パートレット&ゴシヤール
- 第 11 回 項目 多国籍企業の組織論 (3)：ゴシヤール
- 第 12 回 項目 グローバル戦略論：マイケルポーター
- 第 13 回 項目 異文化経営論 (1)：ホフステッド
- 第 14 回 項目 異文化経営論 (2)：ホフステッド
- 第 15 回 項目 グローバル企業の戦略提携

●**成績評価方法（総合）** 出席および授業中の発表で評価します

●**教科書・参考書** 参考書：論文を適時配布します

●**連絡先・オフィスアワー** arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	文化的多様性のマネジメント研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

●授業の計画 (全体) 1. 基礎的論文の学習 2. 実態調査や事例の収集

●成績評価方法 (総合) 出席、発表、レポートの総合点

開設科目	経営戦略の研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	長谷川光圀				

●**授業の概要** この講義は、企業の戦略について、基本的な諸原則と原理を説明し、個々の戦略事例の問題を幅広く取上げる。このことから、企業戦略の包括的理解と応用能力を教授する。／**検索キーワード** トップ組織と意思決定、戦略と状況、原則と原理、コストと便益、組織ネットワーク

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： トップマネジャーの思考を理解し、応用する。**思考・判断の観点**： 個別問題でも、全体思考で考え、判断できるようにする。**態度の観点**： 自分の意見を、積極的に述べる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 企業戦略について
- 第 2 回 **項目** 戦略と意思決定
- 第 3 回 **項目** 拡張戦略
- 第 4 回 **項目** 規模の経済性原則
- 第 5 回 **項目** 個別事例の紹介：製造業のケース
- 第 6 回 **項目** 個別事例の紹介：流通業のケース
- 第 7 回 **項目** 個別事例の紹介：保険業のケース
- 第 8 回 **項目** 範囲の経済性原則
- 第 9 回 **項目** 個別事例の紹介：多角化企業
- 第 10 回 **項目** 個別事例の紹介：流通業
- 第 11 回 **項目** 統合の経済性原則
- 第 12 回 **項目** 個別事例の紹介：合併
- 第 13 回 **項目** 個別事例の紹介：買収
- 第 14 回 **項目** 組織ネットワーク戦略
- 第 15 回 **項目** 価値連鎖の統合戦略

●**メッセージ** 経営学の知識が、最初から必要とする。従って、経営学の基本文献を精読しておくことが、望ましい。

開設科目	国際取引契約研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	小林一子				

●**授業の概要** 各種英文国際取引契約の実例に基づき、契約条項の存在意義、その解釈、果たすべき役割・機能等をリスクマネジメントの観点から考察する。なお授業の始めに3分間スピーチを毎回行うので、テーマにつき必ず入念な事前準備をしておくこと。／**検索キーワード** 英文・国際取引契約（国際売買契約、国際技術援助・提携契約）

●**授業の一般目標** 英文による、リスクマネジメント対策のできた国際取引契約書が、自ら作成できることを目標にする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英文の国際取引契約に盛り込むべき絶対的必要な事項の理解、チェックポイントの把握。**思考・判断の観点**：有利事項の表現、そのさりげない織り込みと妥協点の判断。バランス感覚の養成。**関心・意欲の観点**：英文契約書に対する深い関心と自分で作成したいとする強い意欲。英文アレルギーの学生は遠慮されたい。**態度の観点**：積極的授業参加意欲。**技能・表現の観点**：英文による、両当事者が納得する表現方法の工夫。

●**授業の計画（全体）** 国際売買契約、国際技術援助・提携契約概論にそれぞれ触れた後、実際の英文契約書の読解を試み、自ら作成できるようにする。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 同左
- 第2回 項目 国際売買契約概論 内容 インコタームズ 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第3回 項目 国際売買契約概論 内容 国際売買契約の流れ 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第4回 項目 国際売買契約概論 内容 貿易代金の決済 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第5回 項目 国際売買契約概論 内容 国際物品運送 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第6回 項目 国際売買契約概論 内容 国際貨物保険 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第7回 項目 国際売買契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第8回 項目 国際売買契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第9回 項目 国際売買契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第10回 項目 国際売買契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第11回 項目 国際売買契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第12回 項目 国際技術移転契約概論 内容 知的財産権と技術移転契約 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第13回 項目 国際技術移転契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第14回 項目 国際技術移転契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第15回

●**成績評価方法（総合）** 全出席が当然だが、構成は、出席点20%、積極的授業参加意欲の現れ20%、英文契約書作成能力等理解、発表能力40%、レポート作成能力20%の総合評価。

●**教科書・参考書** 参考書：国際取引法に関する基本的参考書、授業のとき、その都度指示する。

●**メッセージ** 実践に役立つ、実践的研究を行う。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室C 218

開設科目	国際投資契約研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	小林一子				

●**授業の概要** 英文国際投資契約の実例に基づき、契約条項の存在意義、その解釈、果たすべき役割・機能等をリスクマネジメントの観点から考察する。なお授業の始めに3分間スピーチを毎回行うので、テーマにつき必ず入念な事前準備をしておくこと。／**検索キーワード** 英文・国際投資契約 合弁契約

●**授業の一般目標** 英文による、リスクマネジメント対策のできた国際投資契約書が、自ら作成できることを目標にする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英文の国際投資契約に盛り込むべき絶対的の必要事項の理解、チェックポイントの把握。**思考・判断の観点**：有利事項の表現、そのさりげない織り込みと妥協点の判断。バランス感覚の養成。**関心・意欲の観点**：英文契約書に対する深い関心と自分で作成したいとする強い意欲。英文アレルギーの学生は遠慮されたい。**態度の観点**：積極的授業参加意欲。**技能・表現の観点**：英文による、両当事者が納得する表現方法の工夫。

●**授業の計画（全体）** 海外投資概論から始めて、実際の英文投資契約書の読解を試み、自ら作成できるようにする。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 同左
- 第2回 項目 国際投資契約概論 内容 海外投資の法形態 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第3回 項目 国際投資契約概論 内容 直接投資 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第4回 項目 国際投資契約概論 内容 投資環境・事業性調査 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第5回 項目 国際投資契約概論 内容 投資環境・事業性調査 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第6回 項目 国際投資契約概論 内容 合弁契約 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第7回 項目 国際投資契約概論 内容 合弁契約 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第8回 項目 国際投資契約概論 内容 投資の保護と奨励策 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第9回 項目 国際投資契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第10回 項目 国際投資契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第11回 項目 国際投資契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第12回 項目 国際投資契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第13回 項目 国際投資契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第14回 項目 国際投資契約書の読解と作成 内容 同左 授業外指示 プリント及び参考書の予習
- 第15回

●**成績評価方法（総合）** 全出席が当然だが、構成は、出席点20%、積極的授業参加意欲の現れ20%、英文契約書作成能力等理解発表能力40%、レポート作成能力20%の総合評価。

●**教科書・参考書** 参考書：国際取引法に関する基本的参考書、授業のとき、その都度指示する。

●**メッセージ** 実戦に役立つ、実践的研究を行う。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室C 218

開設科目	物流と費用最小化研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	澤 喜司郎				

- 授業の概要** 輸送システムにおける計画と設計について学習します。この講義では経済学だけでなく、交通工学の基礎知識も必要とされます。
- 授業の一般目標** 輸送システムの計画手法の習得を目指します。
- 授業の計画（全体）** 講義は、下記のテキストに沿って講読と報告の形式で進めます。講義（テキスト）の内容は、以下の通りです。Part 1 : Introduction to transportation system Part 2 : Operation and control of transportation vehicles Part 3 : Transportation planning Part 4 : Design of land transportation facilities Part 5 : Design of air transportation facilities Part 6 : Design of water transportation facilities
- 成績評価方法（総合）** 成績評価は、学期末のレポート（20,000 字以上）によって行います。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは、P.H.Wright and N.J.Ahford, Transportation Engineering, 1989 を使用します。受講者は各自で購入しておくこと。
- メッセージ** 毎時間、テキストを 30 ページ程度読み、受講生には毎回全訳文の提出を義務づけます。

開設科目	国際比較経営史の研究手法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	古川澄明				

- 授業の概要** 現代の多国籍企業（Multinationals）の経営戦略と経営・生産システムについて、先行研究の研究方法を検討する。／**検索キーワード** 多国籍企業、Multinationals
- 授業の一般目標** 多国籍企業のダイナミクスに関する先行研究の研究方法を把握する。それを踏まえて、当該企業のグローバル・マネジメントを捉える方法を見つめ直す。
- 授業の計画（全体）** 多国籍企業に関する先行研究を参加者全員で検討する。参加者は、先行研究に関する報告にもとづいて討論を行い、当該研究の研究実績を把握する。毎授業毎に、報告は、Powerpoint 等、プレゼンテーション重視で行い、討論を通じて、問題意識を深めることとする。
- 成績評価方法（総合）** 報告内容、プレゼンテーションのクオリティなどを総合的に評価して、最終評価を行う。
- メッセージ** 「概要」のテーマに関心がある方は、参加して下さい。活発な討論を展開致しましょう。
- 連絡先・オフィスアワー** 事前アポにて、随時。

開設科目	企業経営の国際化と国際比較経営史研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	古川澄明				

●**授業の概要** 2ヶ国以上において事業ないし資産を支配する多国籍企業 (Multinationals:MNEs) が、(1) なぜ存在し、(2) どのような形で存在し、(3) どんな影響力を及ぼしてきたのか、(4) そこにはどのような企業進化のダイナミクスが働いているのか、といった問題を検討する。それを踏まえて、トランスナショナルないし、グローバルなマネジメントが、どのような経営戦略として追究され、経営・生産システムが形成されているのか、といった問題を、とりわけ各国の経済・産業発展との関わりで、またトランスナショナルな事業展開と関わりで、検討する。／**検索キーワード** 国際ビジネスの進化とトランスナショナルなマネジメント

●**授業の一般目標** (1) Multinationals の存在の理由と歴史性について、先行研究の実績を把握する。(2) 事によると先行研究が捉え切れていない企業進化のダイナミクスについて、明確にする。

●**成績評価方法 (総合)** 報告・討論への参加の積極性、問題提起への積極性を評価して、総合的に評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：国際ビジネスの進化 / ジェフリー・ジョーンズ著；桑原哲也 [ほか] 訳 出版者 東京：有斐閣 出版年 1998.10

●**メッセージ** 「概要」のテーマに関心がある方は、参加して下さい。活発な討論を展開致しましょう。

●**連絡先・オフィスアワー** 事前アポにて、随時。

開設科目	商品の経済環境研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	柳田卓爾				

●**授業の概要** 製品差別化に関するジャーナル論文を読む。また、ジャーナル論文を読む際に必要な知識を身に付けるために、基礎的文献を1冊読む。

●**授業の一般目標** ジャーナル論文を緻密に精読する力を身に付けること。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：基礎的概念の説明ができる。 **思考・判断の観点**：基礎的文献やジャーナル論文を読む際、論理展開の正しさ、矛盾を指摘できる。また、諸々の概念を類別できる。

関心・意欲の観点：ディスカッションに参加できる。 **態度の観点**：(1)自分が疑問に思ったことを質問することができる。また、自分の質問に対する答えを、自分自身で用意してることができる。「ここまで理解できたけれども、ここからが分からなかった」というように、何が分かって、何が分からなかったのかを、相手に分かるように説明することができる。(2)相手に対して、適切な質問ができる。相手の質問に対して、適切に答えることができる。その質問に対して、自分自身ならどう答えるか、答えを準備することができる。

●**授業の計画（全体）** (1) 基礎的文献を読む (2) ジャーナル論文を読む

●**成績評価方法（総合）** 宿題、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度、小テスト、定期試験等を総合して評価する。出席は、欠格条件である。

●**教科書・参考書** 教科書：基礎的文献に関しては、初回授業にて、受講生と相談して決める。ジャーナル論文に関しては、コピーを配布する。

●**メッセージ** 修士課程の学生が身に付けておくことが望ましい、基礎的な力を習得できるように授業を構成できるよう努力したいと思います。受講生の皆さんも、がんばってついてきて下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室 C220

開設科目	無形財商品の動向分析研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柳田卓爾				

●**授業の概要** 戦略策定に関連する文献を利用して、修士課程の学生が身に付けておくことが望ましいと思われる理論等を学習する。平行して、具体的なサービス（サービスを自社の商品としている企業）をひとつ取り上げて、授業で学んだ基本的な分析ツールを利用して、分析してもらう。具体的なサービスは、受講生各人が決める。分析結果は、中間報告を経て最終レポートとしてまとめ、報告・提出してもらう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 序論、戦略の概念
- 第 3 回 項目 戦略策定プロセス
- 第 4 回 項目 中間テスト その 1 内容 試験範囲 第 2、3 週
- 第 5 回 項目 中間報告 その 1 内容 受講生各人の個別研究報告
- 第 6 回 項目 全社レベルの戦略分析
- 第 7 回 項目 事業レベルの戦略分析
- 第 8 回 項目 中間テスト その 2 内容 試験範囲 第 6、7 週
- 第 9 回 項目 中間報告 その 2 内容 受講生各人の個別研究報告
- 第 10 回 項目 事業レベルの戦略決定
- 第 11 回 項目 全社レベルの戦略決定
- 第 12 回 項目 戦略策定 いくつかの新しい視点
- 第 13 回 項目 期末試験 内容 試験範囲 第 10、11、12 週
- 第 14 回 項目 最終レポート報告 内容 受講生各人の個別研究報告
- 第 15 回 項目 予備日

●**メッセージ** 修士課程の学生が身に付けておくことが望ましい、基礎的な力を習得できるように授業を構成できるよう努力したいと思います。受講生の皆さんも、がんばってついてきて下さい。

開設科目	企業経営とリスク分析研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	石田成則				

- 授業の概要** リスク・マネジメントの概念と手法を整理したうえで、製造物責任や公害補償責任を取り上げ、それに対応する保険システムとリスク・マネジメント手法の具体的活用について学習する。
- 授業の一般目標** テキストの輪読により、リスク・マネジメント手法の現実と、ファイナンシャル・リスク・マネジメントの中核をなす保険システムの理解を目指す。
- 授業の計画（全体）** P.G. ムーア（小路正夫訳）『ビジネスリスク・マネジメント』（日経マグローヒル社、昭和61年）の輪読

開設科目	企業経営とリスク管理研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	石田成則				

- 授業の概要** 事業活動リスクについて整理したうえで、ART（保険代替手段）、金融再保険、ファイナイト保険、そして債権流動化のための保険スキームについて学習する。応用例として、国際プロジェクト・ビジネスにおけるリスク管理問題を取り上げる。
- 授業の一般目標** 国際プロジェクト・ビジネスのリスク管理を事例に、リスクマネジメントの理論と実際を学ぶ。
- 授業の計画（全体）** 企業経営における事業活動リスクについて整理したうえで、リスク管理の基礎理論と、応用事例について学習する。そのためにつぎのテキストを輪読する。S.E.Harrington & G.R.Niehaus, Risk Management and Insurance, McGraw-Hill, 1999
- 教科書・参考書** 参考書：企業のリスク・ファイナンスと保険, 吉澤卓哉, 千倉書房, 2001 年

開設科目	国際資本移動と為替相場研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	国際マクロ経済分析研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	都市経済論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉村弘				

- 授業の概要** 優れた修士論文を作成するために役立つものとした。今回は地域間人口移動について、テキストに沿って学習し、その後、日本のデータに即して研究する。
- 教科書・参考書** 教科書： 地域政策の道標, 著者代表：戸田常一, ぎょうせい, 2002 年
- メッセージ** 今年度は狭いテーマを設定したが、その考え方およびアプローチの仕方は、応用範囲が広いと考えられる。

開設科目	地域経済論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	吉村弘				

●**授業の概要** 優れた修士論文を作成するために役立つものとしたい。今回は地域経済の移出主導モデルについて、テキストに沿って学習し、その後、日本のデータに即して研究する。

●**教科書・参考書** 教科書： 地域政策の道標, 著者代表：戸田常一, ぎょうせい, 2002 年

●**メッセージ** テーマは狭くとも、その考え方およびアプローチの仕方は、応用範囲が広いと考えられる。

開設科目	中国経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	陳建平				

- 授業の概要** 改革開放20年、中国が大きな変貌を遂げた。その中国経済の現在の到達点を文献等の精読を通じて把握し、21世紀の中国経済の展望について考える。
- 授業の一般目標** 今日の中国経済の成長と社会主義計画経済時代の経済発展との関連性について正しく理解する。
- 授業の計画（全体）** 文献資料等を講読する。
- 成績評価方法（総合）** 報告とレポートによって評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは受講者と相談の上決める。
- メッセージ** 文献資料の多くが中国語であるため、中国語の理解力が求められる。

開設科目	中国産業政策研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	陳建平				

●**授業の概要** 改革開放を通じて中国の産業構造は大きく変貌した。本講義では、中国の産業政策について取り上げ、文献等の精読を通じて認識を深める。

●**授業の一般目標** 中国の産業政策の現状と課題についての理解を深める。

●**授業の計画（全体）** 文献資料等の講読、それについての討論等を通じて中国の産業政策についての知識と識見を深める。

●**成績評価方法（総合）** 小テスト／授業内レポート = 50 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 50 % 出席 = 欠格条件

●**教科書・参考書** 教科書：テキストは受講者と相談の上決める。

●**メッセージ** 無断欠席しないこと。

開設科目	多国籍企業と世界経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	河野真治				

- 授業の概要** 多国籍企業が世界経済にどのような変化をもたらしているか検討する。具体的には次の諸点を問題とする。(1) 企業内国際分業が貿易に与える影響、(2) 直接投資が途上国の経済発展に与える効果、(3) 多国籍化と空洞化、(4) 先進国間投資とグローバル化、地域主義、(5) 多国籍企業間の競争、M & A、戦略的提携。

開設科目	国際産業研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	河野眞治				

- 授業の概要** いくつかの産業を取り上げて、現代における巨大企業間の国際競争の特徴を探り出す。検討するのは、自動車、半導体、電気通信、航空、コンピュータ、鉄鋼、石油などである。問題となるのは、直接投資、M & A、提携、国際的な工場配置、情報化等の諸点である。

開設科目	独占禁止法研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官					

開設科目	経済法研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	平野充好				

●**授業の概要** 経済法、主として最近の独禁法に関する審決・判例を研究する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 化粧品の対面販売義務と不当な拘束条件付取引・再販売価格の拘束
- 第 2 回 項目 化粧品の対面販売義務と不当な拘束条件付取引・再販売価格の拘束
- 第 3 回 項目 ソフトウェアの抱き合せ販売
- 第 4 回 項目 ソフトウェアの抱き合せ販売
- 第 5 回 項目 取引拒絶及び不当廉価と差止・損害賠償請求
- 第 6 回 項目 取引拒絶及び不当廉価と差止・損害賠償請求
- 第 7 回 項目 景表法上の不当表示の要件
- 第 8 回 項目 景表法上の不当表示の要件
- 第 9 回 項目 優越的地位の濫用
- 第 10 回 項目 優位的地位の濫用
- 第 11 回 項目 私的独占違反事件に関する審・判決の研究
- 第 12 回 項目 私的独占違反事件に関する審・判決の研究
- 第 13 回 項目 私的独占違反事件に関する審・判決の研究
- 第 14 回 項目 私的独占違反事件に関する審・判決の研究
- 第 15 回 項目 私的独占違反事件に関する審・判決の研究

開設科目	韓国経済論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	横田伸子				

- 授業の概要** 1997年の経済危機以降の韓国の経済構造改革について分析し、それが韓国経済社会の構造をどのように変えたのかを考察する。とくに、韓国社会を分析する際、ジェンダーの視点も取り入れる。
／検索キーワード 韓国経済、経済構造改革、経済危機、ジェンダー
- 授業の一般目標** 韓国の経済構造改革について理解し、把握する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。**思考・判断の観点**：テキストである社会科学専門書の内容を批判的に読解できる。**技能・表現の観点**：客観的立場から、自己の議論を論理的に展開できる。
- 授業の計画（全体）** 韓国の構造改革に関する学術書や論文を各自に割り当て、その内容を整理し報告する。その報告を中心に討論する。
- 成績評価方法（総合）** 1. 報告 40%、レポート 40%、討論 20%。4回以上欠席した場合、単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは適宜指示する。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワーはとくに設けません。E-mail ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp
電話：083-933-5559

開設科目	韓国経済論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教官	横田伸子				

- 授業の概要** 1997年の経済危機以降の韓国の経済構造改革について分析し、それが韓国経済社会の構造をどのように変えたのかを考察する。とくに、韓国社会を分析する際、ジェンダーの視点も取り入れる。
／検索キーワード 韓国経済、経済構造改革、経済危機、ジェンダー
- 授業の一般目標** 韓国の経済構造改革について理解し、把握する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。
思考・判断の観点： 1. テキストである社会科学専門書の内容を批判的に読解できる。
技能・表現の観点： 1. 客観的立場から、自己の議論を論理的に展開できる。
- 授業の計画（全体）** 韓国の構造改革に関する学術書や学術論文を各自に割り当て、その内容を整理し報告する。報告を中心に討論を行う。
- 成績評価方法（総合）** 1. 報告 40 %、レポート 40 %、討論 20 %。4回以上欠席した場合、単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは適宜指示する。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワーはとくに設けません。E-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp
電話：083-933-5559

開設科目	コミュニケーション英語研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					